

**IBM DB2 Connect 10.1**

**DB2 Connect Personal  
Edition インストールおよび構成**





**IBM DB2 Connect 10.1**

**DB2 Connect Personal  
Edition インストールおよび構成**



**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、85 ページの『付録 B. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM 資料は、オンラインでご注文いただくことも、ご自分の国または地域の IBM 担当員を通してお求めいただくこともできます。

- オンラインで資料を注文するには、IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) をご利用ください。
- ご自分の国または地域の IBM 担当員を見つけるには、IBM Directory of Worldwide Contacts (<http://www.ibm.com/planetwide/>) をお調べください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックslashと表示されたり、バックslashが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC27-3861-00  
IBM DB2 Connect 10.1  
DB2 Connect Installing and Configuring  
DB2 Connect Personal Edition

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 1993, 2012.

# 目次

本書について . . . . .	v
------------------	---

---

## 第 1 部 本書について . . . . . 1

---

## 第 2 部 DB2 Connect 入門 . . . . . 3

### 第 1 章 DB2 Connect について . . . . . 5

DB2 Connect の製品オファリング . . . . .	5
---------------------------------	---

### 第 2 章 一般的な DB2 Connect のシナリオ . . . . . 7

DB2 Connect Personal Edition を使用した System z ホストまたは IBM i DB2 データへのアクセス . . . . .	7
---	---

---

## 第 3 部 DB2 Connect Personal Edition のインストール . . . . . 9

### 第 3 章 DB2 Connect Personal Edition のインストールと構成に必要な標準ステップ . . . . . 11

DB2 Connect のディスクおよびメモリー要件 . . . . .	11
DB2 Connect のディスクおよびメモリー要件 . . . . .	13
DB2 Connect Personal Edition のインストール (Linux) . . . . .	14
DB2 Connect Personal Edition のインストール要件 (Linux) . . . . .	17
DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Linux) . . . . .	17
DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Linux) . . . . .	18
DB2 Connect Personal Edition のインストール (Solaris) . . . . .	18
DB2 Connect 製品のインストール要件 (Solaris) DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Solaris) . . . . .	21
DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Solaris) . . . . .	23
DB2 Connect Personal Edition のインストール (Windows) . . . . .	24
DB2 Connect Personal Edition のインストール要件 (Windows) . . . . .	25
DB2 Connect Personal Edition のインストールに 必要なユーザー・アカウント (Windows) . . . . .	27
LDAP ディレクトリー・サービス用の Active Directory スキーマの拡張 (Windows) . . . . .	28
LDAP ディレクトリー・サービス用の Active Directory スキーマの拡張 (Windows) . . . . .	29
非管理者による DB2 Connect (Windows) のイン ストール . . . . .	29

### 第 4 章 ユーザー ID 管理 . . . . . 31

DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グルー プへのユーザー ID の追加 (Windows) . . . . .	31
DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グルー プへのユーザー ID の追加 (Windows) . . . . .	32

---

## 第 4 部 DB2 Connect 通信の準備 33

### 第 5 章 DB2 Connect からの接続のための IBM DB2 for IBM i の準備 . . . . . 35

### 第 6 章 DB2 Connect からの接続のための DB2 for z/OS の準備 . . . . . 37

ホスト・データベース . . . . .	37
DB2 for z/OS 用の TCP/IP の構成 . . . . .	38
DB2 for z/OS の構成 . . . . .	41

### 第 7 章 DB2 Connect からの接続のための DB2 for VSE & VM の準備 . . . . . 43

### 第 8 章 メインフレームおよびミッドレンジへの接続の構成 . . . . . 45

IBM メインフレーム・データベース・サーバーへの 接続の構成 . . . . .	45
--	----

---

## 第 5 部 参照 . . . . . 47

### 第 9 章 IBM メインフレーム・データベースへのアクセスの構成 . . . . . 49

### 第 10 章 サポートされる DB2 Connect インターフェイス言語 . . . . . 51

DB2 セットアップ・ウィザードの各国語表示 (Linux および UNIX) . . . . .	51
言語 ID (別の言語で DB2 セットアップ・ウィザ ードを実行する場合) . . . . .	52
DB2 Connect 製品のインターフェイス言語の変更 (Windows) . . . . .	53
DB2 Connect インターフェイス言語の変更 (Linux および UNIX) . . . . .	54
文字データの変換 . . . . .	55

### 第 11 章 サポートされる DB2 Connect インターフェイス言語 . . . . . 57

DB2 セットアップ・ウィザードの各国語表示 (Linux および UNIX) . . . . .	57
言語 ID (別の言語で DB2 セットアップ・ウィザ ードを実行する場合) . . . . .	58

DB2 Connect 製品のインターフェース言語の変更 (Windows) . . . . .	59
DB2 Connect インターフェース言語の変更 (Linux および UNIX) . . . . .	60
文字データの変換 . . . . .	61

**第 12 章 データベース・アプリケーションの開発 . . . . . 63**

DB2 Connect 上でのデータベース・ユーティリティのバインディング . . . . .	63
アプリケーションの実行 . . . . .	64

**第 13 章 DB2 Connect のアンインストール . . . . . 67**

DB2 Connect のアンインストール (Windows) . . . . .	67
DB2 Connect のアンインストール (Linux および UNIX) . . . . .	68

**第 6 部 付録 . . . . . 71**

付録 A. DB2 技術情報の概説 . . . . .	73
-----------------------------	----

DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式). . . . .	74
コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する . . . . .	76
異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス . . . . .	77
コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新 . . . . .	77
コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新 . . . . .	79
DB2 チュートリアル . . . . .	81
DB2 トラブルシューティング情報 . . . . .	81
ご利用条件 . . . . .	82

**付録 B. 特記事項 . . . . . 85**

索引 . . . . .	89
--------------	----

---

## 本書について

「DB2 Connect Personal Edition インストールおよび構成」では、DB2 Connect™ Personal Edition 製品のための準備を行い、それをインストールするために必要なすべての情報を提供します。サポートされる各オペレーティング・システムに固有の情報が含まれています。DB2 Connect Personal Edition とサポートされるデータベース・サーバー製品との関係についても記載しており、接続を構成する方法も説明しています。

### 本書の対象読者

システム管理者、データベース管理者、通信の専門技術者、ソフトウェア製品をインストールするユーザーが本書の全体または一部をお読みになることを想定しています。





---

## 第 1 部 本書について

「DB2 Connect Personal Edition インストールおよび構成」では、DB2 Connect Personal Edition 製品のための準備を行い、それをインストールするために必要なすべての情報を提供します。サポートされる各オペレーティング・システムに固有の情報が含まれています。DB2 Connect Personal Edition とサポートされるデータベース・サーバー製品との関係についても記載しており、接続を構成する方法も説明しています。

### 本書の対象読者

システム管理者、データベース管理者、通信の専門技術者、ソフトウェア製品をインストールするユーザーが本書の全体または一部をお読みになることを想定しています。



---

## 第 2 部 DB2 Connect 入門



---

## 第 1 章 DB2 Connect について

DB2 Connect は、Linux、UNIX、および Windows オペレーティング・システムからメインフレームおよびミッドレンジのデータベースへの接続を提供します。

z/OS<sup>®</sup>、IBM<sup>®</sup> i および IBM Power Systems<sup>™</sup>、VSE、および VM 上の DB2<sup>®</sup> データベースに接続できます。分散リレーショナル・データベース体系 (Distributed Relational Database Architecture<sup>™</sup>) (DRDA<sup>®</sup>) に準拠している IBM 以外のデータベースにも接続できます。

---

### DB2 Connect の製品オファリング

DB2 Connect には接続に関する複数のソリューションがあり、それには DB2 Connect Personal Edition、および以下に挙げる複数の DB2 Connect サーバー製品が含まれます。

- DB2 Connect Enterprise Edition
- DB2 Connect Application Server Edition
- DB2 Connect Unlimited Edition for System z<sup>®</sup>
- DB2 Connect Unlimited Edition for System i<sup>®</sup>

DB2 Connect の製品オファリングの詳細については、[www.ibm.com/software/data/db2/db2connect/](http://www.ibm.com/software/data/db2/db2connect/) を参照してください。



---

## 第 2 章 一般的な DB2 Connect のシナリオ

DB2 Connect を使用して実動データベース環境を作成する一般的な方法と、DB2 Connect に関係する基本タスクを完了する一般的な方法を示します。シナリオには、DB2 Connect と IBM メインフレーム・データベース・サーバーとの間の直接接続、構成アシスタントを使用してデータベースへの接続を管理する、および IBM Data Server Client でのデータベース・アプリケーション開発のサポートといった、環境およびタスクが含まれています。

---

### DB2 Connect Personal Edition を使用した System z ホストまたは IBM i DB2 データへのアクセス

中間サーバーのない直接接続は、非常に便利な望ましい構成です。IBM メインフレーム・データベース・サーバーが TCP/IP 接続をサポートする状況下では特に、直接接続が望ましいと言えます。そのような構成では、各 DB2 Connect ワークステーションは、IBM メインフレーム・データベース・サーバーとの直接接続を確立します。

TCP/IP 接続のためには、IBM メインフレーム・データベースが TCP/IP をサポートしていなければなりません。以下のバージョンがネイティブ TCP/IP 接続をサポートしています。

- DB2 for z/OS バージョン 7.1 以降
- IBM DB2 for IBM i バージョン 5 リリース 1 以降
- DB2 Server for VM and VSE バージョン 7 以降

IBM メインフレーム・データベース・サーバーに接続するには、IBM Data Server Client へ追加することができる DB2 Connect ライセンスが必要です。

8 ページの図 1 は、DB2 Connect Personal Edition をインストールされ、しかも IBM メインフレーム・データベース・サーバーに直接接続されたワークステーションを示しています。

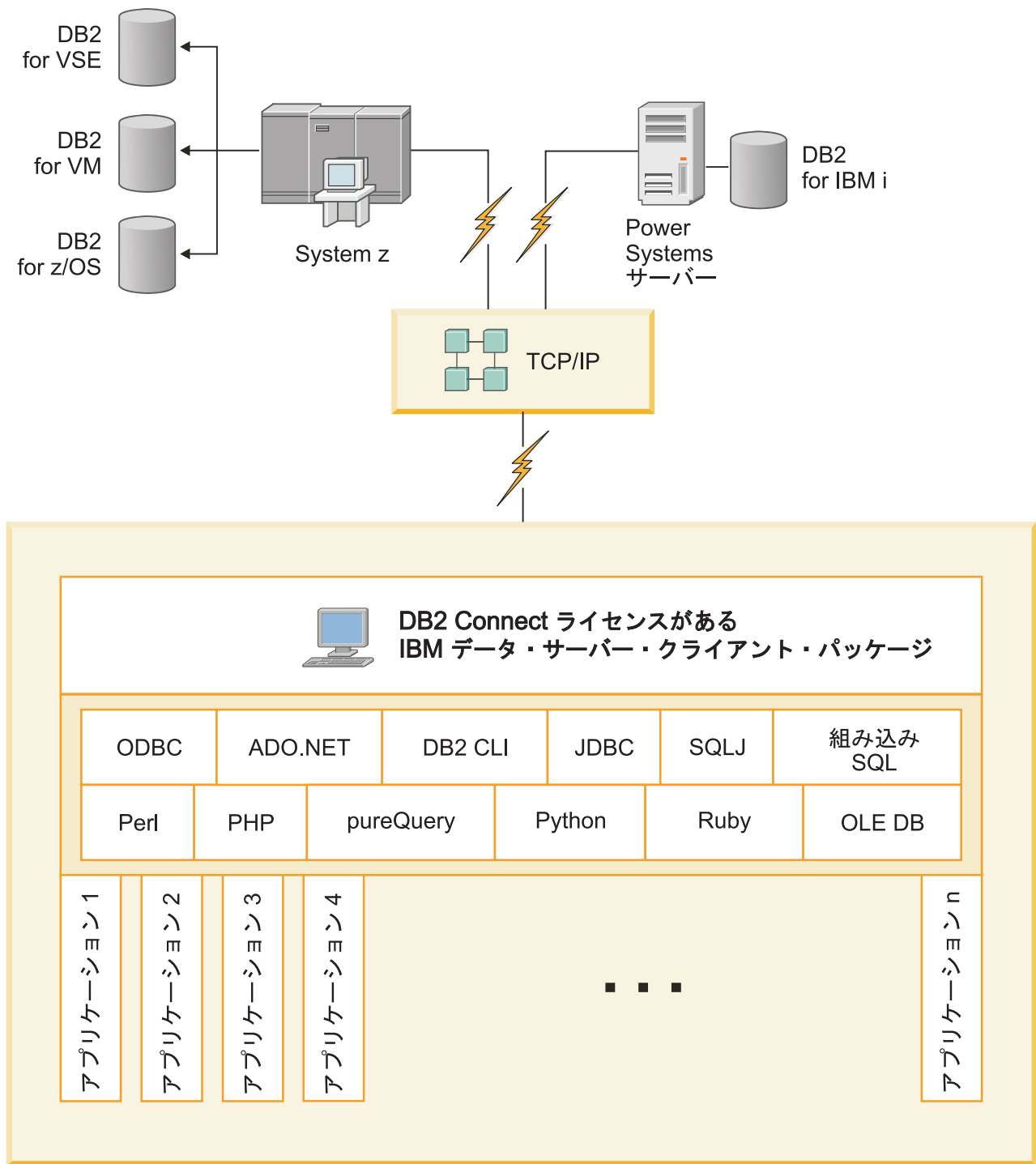


図1. DB2 Connect と、IBM メインフレーム・データベース・サーバーとの直接接続



---

## 第 3 部 DB2 Connect Personal Edition のインストール



---

## 第 3 章 DB2 Connect Personal Edition のインストールと構成に必要な標準ステップ

DB2 Connect Personal Edition のセットアップは、複数のステップから成るプロセスです。DB2 Connect Personal Edition のインストールおよび構成に必要な通常のステップには、システムの前提条件の検証、DB2 Connect ソフトウェアのインストール、接続およびバインディングのプログラムおよびユーティリティーのテストが含まれます。

**注:** 使用しているコンピューターに IBM Data Server Client がインストールされている場合は、そのコンピューターで DB2 Connect Personal Edition のライセンスを登録することにより、DB2 Connect Personal Edition を活動化することができます。

1. DB2 Connect をネットワーク内でどのように活用するかを決定します。
2. ハードウェア前提条件とソフトウェア前提条件を、ワークステーションでも IBM メインフレーム・データベース・サーバーでも満たしていることを確認します。
3. IBM データベース・サーバーが、DB2 Connect からの接続を受け入れられるように構成されていることを確認します。
4. DB2 Connect のソフトウェアをインストールします。現在のワークステーションを使用して、IBM の接続を構成および検査します。
5. インストールが完了したら、DB2 Connect と IBM メインフレーム・データベース・システムとの間の接続を確立します。

DB2 Connect は、すべての TCP/IP 接続を検出して、構成することができます。詳しくは、IBM Data Server Driver Package のインストール済み環境の妥当性検査 (Windows) に関するトピックを参照してください。

6. DB2 Connect に付属しているプログラムおよびユーティリティーを、ホストまたは IBM メインフレーム・データベースへバインドします。

**注:** このステップは、IBM Data Server Driver Package (DS ドライバー) では必要ありません。大規模なクライアント・パッケージでは、各フィックスパックのアップグレードで再バインドが必要です。

7. IBM メインフレーム接続をテストします。
8. これで、DB2 Connect とすべてのアプリケーションを使用する準備が整いました。アプリケーション開発に使用するワークステーションには、IBM Data Server Client をインストールしてください。
9. このワークステーションを使用して DB2 for z/OS、または DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows サーバーを管理する場合、IBM Data Server Client をインストールしてください。

---

### DB2 Connect のディスクおよびメモリー要件

DB2 Connect 環境のために適切な量のディスク・スペースが使用可能であることを確認し、メモリーを適宜割り振ります。

## ディスク要件

この製品に必要なディスク・スペースは、選択するインストールのタイプ、およびご使用のファイル・システムのタイプに応じて異なります。DB2 セットアップ・ウィザードは、標準、コンパクト、またはカスタム・インストールの際に選択したコンポーネントに基づいて、動的にサイズの見積もりを行います。

必須のデータベース、ソフトウェア、および通信製品のためのディスク・スペースも忘れずに確保してください。

Linux と UNIX オペレーティング・システムでは、/tmp ディレクトリーに 2 GB のフリー・スペースを確保することをお勧めします。

## メモリー要件

メモリー要件は、データベース・システムのサイズと複雑さ、データベース・アクティビティーの範囲、およびシステムにアクセスするクライアントの数によって異なります。DB2 データベース・システムでは少なくとも 256 MB の RAM が必要です<sup>1</sup>。DB2 製品と DB2 GUI ツールを実行するシステムであれば、少なくとも 512 MB の RAM が必要になります。ただし、パフォーマンスの改善のためには、1 GB の RAM をお勧めします。ここで示した要件には、システムで実行する他のソフトウェアのための追加のメモリー要件は含まれていません。IBM Data Server Client サポートについては、これらのメモリー要件は 5 つの並行クライアント接続を基本としています。5 つのクライアント接続を追加するたびに、追加で 16 MB の RAM が必要になります。

DB2 サーバー製品では、いくつかのメモリー構成パラメーターの値を自動的に設定するセルフチューニング・メモリー・マネージャー (STMM) が用意されており、これによりメモリー構成の作業が簡略化されます。このメモリー調整機能を有効にすると、ソート、パッケージ・キャッシュ、ロック・リスト、バッファ・プールなど、メモリーを消費するいくつかの機能の間で、使用可能メモリー・リソースが動的に分散されます。

## ページング・スペース要件

DB2 では、ページング (スワップとも呼ばれる) を使用可能にする必要があります。この構成は、スワップ/ページング・スペースの使用状況をモニターする、またはその情報に依存する DB2 のさまざまな機能をサポートするために必要となります。実際に必要とされるスワップ/ページング・スペースの量は、システムによって異なります。また、単にアプリケーション・ソフトウェアによるメモリー使用状況に基づくわけでもありません。正確なスワップ/ページング・スペースが必要となるのは、Solaris および HP プラットフォームの DB2 のみです。これらのプラットフォームでは、早い段階でページング・スペースを割り振るためです。

ほとんどのシステムでは、妥当なスワップ/ページング・スペースの最小構成は、RAM の 25 - 50% です。多数の小規模なデータベース、または STMM によってチューニングされた複数のデータベースを使用する Solaris および HP システムでは、RAM と同じサイズまたはそれ以上のページング・スペース構成が必要となる場

---

1. DB2 製品を Itanium ベース・システムの HP-UX バージョン 11i で実行する場合は、少なくとも 512 MB の RAM が必要です。

合があります。データベースまたはインスタンスごとに仮想メモリーを事前割り振りするため、また複数データベースを STMM チューニングする場合に仮想メモリーを保持するため、より多くのスペースが必要となります。システムでの予期せぬメモリー・オーバーコミットメントに備えて、追加のスワップ/ページング・スペースをプロビジョンすることもできます。

---

## DB2 Connect のディスクおよびメモリー要件

DB2 Connect 環境のために適切な量のディスク・スペースが使用可能であることを確認し、メモリーを適宜割り振ります。

### ディスク要件

この製品に必要なディスク・スペースは、選択するインストールのタイプ、およびご使用のファイル・システムのタイプに応じて異なります。DB2 セットアップ・ウィザードは、標準、コンパクト、またはカスタム・インストールの際に選択したコンポーネントに基づいて、動的にサイズの見積もりを行います。

必須のデータベース、ソフトウェア、および通信製品のためのディスク・スペースも忘れずに確保してください。

Linux と UNIX オペレーティング・システムでは、/tmp ディレクトリーに 2 GB のフリー・スペースを確保することをお勧めします。

### メモリー要件

メモリー要件は、データベース・システムのサイズと複雑さ、データベース・アクティビティーの範囲、およびシステムにアクセスするクライアントの数によって異なります。DB2 データベース・システムでは少なくとも 256 MB の RAM が必要です<sup>2</sup>。DB2 製品と DB2 GUI ツールを実行するシステムであれば、少なくとも 512 MB の RAM が必要になります。ただし、パフォーマンスの改善のためには、1 GB の RAM をお勧めします。ここで示した要件には、システムで実行する他のソフトウェアのための追加のメモリー要件は含まれていません。IBM Data Server Client サポートについては、これらのメモリー要件は 5 つの並行クライアント接続を基本としています。5 つのクライアント接続を追加するたびに、追加で 16 MB の RAM が必要になります。

DB2 サーバー製品では、いくつかのメモリー構成パラメーターの値を自動的に設定するセルフチューニング・メモリー・マネージャー (STMM) が用意されており、これによりメモリー構成の作業が簡略化されます。このメモリー調整機能を有効にすると、ソート、バッケージ・キャッシュ、ロック・リスト、バッファー・プールなど、メモリーを消費するいくつかの機能の間で、使用可能メモリー・リソースが動的に分散されます。

### ページング・スペース要件

DB2 では、ページング (スワップとも呼ばれる) を使用可能にする必要があります。この構成は、スワップ/ページング・スペースの使用状況をモニターする、また

---

2. DB2 製品を Itanium ベース・システムの HP-UX バージョン 11i で実行する場合は、少なくとも 512 MB の RAM が必要です。

はその情報に依存する DB2 のさまざまな機能をサポートするために必要となります。実際に必要とされるスワップ/ページング・スペースの量は、システムによって異なります。また、単にアプリケーション・ソフトウェアによるメモリー使用状況に基づくわけでもありません。正確なスワップ/ページング・スペースが必要となるのは、Solaris および HP プラットフォームの DB2 のみです。これらのプラットフォームでは、早い段階でページング・スペースを割り振るためです。

ほとんどのシステムでは、妥当なスワップ/ページング・スペースの最小構成は、RAM の 25 - 50% です。多数の小規模なデータベース、または STMM によってチューニングされた複数のデータベースを使用する Solaris および HP システムでは、RAM と同じサイズまたはそれ以上のページング・スペース構成が必要となる場合があります。データベースまたはインスタンスごとに仮想メモリーを事前割り振りするため、また複数データベースを STMM チューニングする場合に仮想メモリーを保持するため、より多くのスペースが必要となります。システムでの予期せぬメモリー・オーバーコミットメントに備えて、追加のスワップ/ページング・スペースをプロビジョンすることもできます。

---

## DB2 Connect Personal Edition のインストール (Linux)

インストール設定を定義して DB2 Connect Personal Edition 製品を Linux 上にインストールするには、DB2 セットアップ・ウィザードを使用します。IBM Data Server Driver Package (DS Driver) をインストールしてから、DB2 Connect Personal Edition のライセンスを適用する方法が、以下のセクションにリストするプロセスの代わりに推奨される方法です。詳しくは、IBM データ・サーバー・クライアントのタイプを参照してください。

### 始める前に

インストールを開始する前に以下を行ってください。

- DB2 Connect をインストールするには、root 権限または non-root 権限を使用します。non-root インストールについて詳しくは、『非 root インストールの概要 (Linux および UNIX)』を参照してください。
- システムが以下の要件を満たしていることを確認します。
  - ディスクおよびメモリーの要件
  - 17 ページの『DB2 Connect Personal Edition のインストール要件 (Linux)』。
- ご使用のシステムに DB2 データベース製品の DVD をマウントしなければなりません。
- DB2 Connect 製品イメージが使用できる状態でなければなりません。DB2 Connect 製品の非英語バージョンをインストールしている場合、適切な National Language Package も必要です。
- システムにインストール済みの DB2 データベース製品を見つけるには、**db21s** コマンドを発行します。
- DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィカル・インストーラーです。DB2 セットアップ・ウィザードをマシン上で実行するには、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを表示可能な X Window ソフトウェアが必要です。X

Window サーバーが実行中であることを確認してください。ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認します。例えば、`export DISPLAY=9.26.163.144:0` のようにします。

- 使用する環境で Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) などのセキュリティー・ソフトウェアが使用されている場合、DB2 セットアップ・ウィザードを開始する前に、必要な DB2 ユーザーを手動で作成する必要があります。開始する前に、「DB2 サーバー機能 インストール」のトピック『一元的なユーザー管理に関する考慮事項』を参照してください。

注: Network Information Services (NIS) および Network Information Services Plus (NIS+) フィーチャーは、DB2 バージョン 9.1 フィックスパック 2 以降では推奨されなくなりました。これらのフィーチャーは将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。一元的なユーザー管理サービスについて推奨されているソリューションは、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) です。

## このタスクについて

DB2 セットアップ・ウィザードは、すべての DB2 データベース製品のインストールと構成の自動化のための、Java ベースのインストール・ツールです。このユーティリティーを使用したくない場合は、2 つの代替の方法があります。DB2 Connect Personal Edition 製品のインストール方法は以下のとおりです。

- 応答ファイル方式を使用する方法。
- **db2setup** コマンドを使用して手動で行う方法。オペレーティング・システムの固有のインストール・ユーティリティー **rpm** を使って手動で DB2 データベース製品をインストールすることはできません。DB2 インストールとのインターフェースを取って照会を行うために使用する既存のスクリプトに、この固有のインストール・ユーティリティーが含まれている場合は、変更が必要です。

## 手順

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して Linux に DB2 Connect Personal Edition をインストールするには、以下のようになります。

1. 以下のようにして、DVD がマウントされているディレクトリーに移動します。

```
cd /db2dvd
```

ここで、*db2dvd* は DVD のマウント・ポイントを表します。

2. DB2 Connect 製品イメージをダウンロードした場合、製品ファイルを解凍および `untar` する必要があります。

- a. 製品ファイルの解凍:

```
gzip -d product.tar.gz
```

ここで、*product* はダウンロードしたデータベース製品の名前です。

- b. 製品ファイルの `untar`:

```
tar xvf product.tar
```

- c. ディレクトリーの変更:

```
cd ./product/disk1
```



注: National Language Package をダウンロードした場合、それを同じディレクトリーに `untar` します。これにより、サブディレクトリー (`./nlpack/disk2` など) が同じディレクトリー内に作成され、インストーラーが自動的にインストール・イメージを検索できるのでプロンプトが出されることはありません。

3. 製品イメージが存在するディレクトリーから `./db2setup` コマンドを入力して DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。程なく IBM DB2 セットアップ・ランチパッドがオープンします。複数の CD によるインストールでは、マウントされた CD の外部の位置から相対または絶対パス名を指定して `db2setup` コマンドを発行することにより、DB2 Connect 製品 CD を必要に応じてアンマウントできるようにします。このウィンドウから、インストールの前提条件およびリリース・ノートを表示することができます。あるいは、インストールに直接進むこともできます。
4. インストールを開始したなら、DB2 セットアップ・ウィザードのインストール・パネルに従って、選択を行ってください。DB2 セットアップ・ウィザードでは、インストール操作のヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、ヘルプ をクリックします。「キャンセル」を押せば、いつでもインストールを終了できます。DB2 セットアップ・ウィザードの最後のインストール・パネルで「完了」をクリックしてはじめて DB2 ファイルはシステムにコピーされます。完了すると、デフォルトのインストール・パス `/opt/IBM/db2/バージョン 10.1` を使用して、DB2 Connect Personal Edition 製品がインストールされます。

このディレクトリーが既に使用中のシステム上にインストールする場合、DB2 Connect 製品のインストール・パスには `_xx` が追加されます。`xx` は、01 から始まり、インストールした DB2 コピーの数に応じて増加する数字です。

DB2 データベース製品のインストール・パスを独自に指定することもできます。

## タスクの結果

National Language Pack は、DB2 Connect 製品がインストールされた後に、`./db2setup` コマンドを National Language Pack が存在するディレクトリーから実行することによってもインストールできます。

インストール・ログの `db2setup.log` および `db2setup.err` は、デフォルトでは `/tmp` ディレクトリーに作成されます。ログ・ファイルの作成場所を指定できます。

ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 データベース製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センター をインストールする必要があります。「DB2 インフォメーション・センター」には、DB2 データベースおよび DB2 データベース関連製品の資料が収められています。「DB2 サーバー機能 インストール」のトピック『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』を参照してください。



## DB2 Connect Personal Edition のインストール要件 (Linux)

DB2 Connect Personal Edition を Linux オペレーティング・システムにインストールする前に、選択したシステムが必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、ソフトウェア、および通信の要件を満たしていることを確認してください。

DB2 Connect Personal Edition をインストールするには、以下に示す要件を満たす必要があります。

### ハードウェア要件

以下のプロセッサのいずれかでなければなりません。

- x86 (Intel Pentium、Intel Xeon、AMD Athlon)
- x64 (Intel EM64T および AMD64)

### ディストリビューション要件

サポートされる Linux ディストリビューションの最新情報は、ブラウザで [www.ibm.com/db2/linux/validate](http://www.ibm.com/db2/linux/validate) をご覧ください。

カーネル構成パラメーターの更新が必要となることがあります。カーネル構成パラメーターは `/etc/sysctl.conf` に設定されます。`sysctl` コマンドを使用したこれらのパラメーターの設定および活動化については、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

### ソフトウェア要件

- オンライン・ヘルプを表示するにはブラウザが必要です。
- DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 Connect をインストールする場合、または何らかの DB2 グラフィック・ツールを使用する場合には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをレンダリングできる X Window システム・ソフトウェアが必要です。

### 通信要件

TCP/IP 接続のために追加のソフトウェアは必要ありません。

## DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Linux)

Linux オペレーティング・システム上に CD-ROM をマウントするには、`mount` コマンドを発行します。

### 始める前に

システム構成によっては、ディスクをマウントするために root ユーザー権限が必要な場合があります。

### 手順

Linux オペレーティング・システム上に CD または DVD をマウントするには、以下のようにします。

1. CD または DVD をドライブに挿入し、以下のコマンドを入力します。

```
mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /cdrom
```

ここで、`/cdrom` は CD または DVD のマウント・ポイントを表します。

2. ログアウトします。

## タスクの結果

CD または DVD ファイル・システムがマウントされます。ドライブにディスクを挿入し、`cd /cdrom` コマンドを入力して、CD または DVD の内容を表示します。ここで `cdrom` は、マウント・ポイント・ディレクトリーです。

## DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Linux)

Linux オペレーティング・システム上に CD-ROM をマウントするには、`mount` コマンドを発行します。

### 始める前に

システム構成によっては、ディスクをマウントするために `root` ユーザー権限が必要な場合があります。

### 手順

Linux オペレーティング・システム上に CD または DVD をマウントするには、以下のようにします。

1. CD または DVD をドライブに挿入し、以下のコマンドを入力します。

```
mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /cdrom
```

ここで、`/cdrom` は CD または DVD のマウント・ポイントを表します。

2. ログアウトします。

## タスクの結果

CD または DVD ファイル・システムがマウントされます。ドライブにディスクを挿入し、`cd /cdrom` コマンドを入力して、CD または DVD の内容を表示します。ここで `cdrom` は、マウント・ポイント・ディレクトリーです。

---

## DB2 Connect Personal Edition のインストール (Solaris)

インストール設定を定義して、DB2 Connect Personal Edition をインストールするには、DB2 セットアップ・ウィザードを使用します。IBM Data Server Driver Package (DS Driver) をインストールしてから、DB2 Connect Personal Edition のライセンスを適用する方法が、以下のセクションにリストするプロセスの代わりに推奨される方法です。詳しくは、IBM データ・サーバー・クライアントのタイプを参照してください。

### 始める前に

インストールを開始する前に以下を行ってください。

- DB2 Connect をインストールするには、`root` ユーザー権限または `non-root` ユーザー権限を使用します。`non-root` インストールについて詳しくは、「DB2 サーバー機能 インストール」の『非 `root` インストールの概要 (Linux および UNIX)』を参照してください。
- ご使用のシステムがインストール、メモリーおよびディスクの各要件に合うことを確認します。

- ご使用のシステムに DB2 データベース製品の DVD をマウントしなければなりません。
- DB2 Connect 製品イメージが使用できる状態でなければなりません。DB2 Connect 製品の非英語バージョンをインストールしている場合、適切な National Language Package も必要です。
- システムにインストール済みの DB2 データベース製品を見つけるには、**db2ls** コマンドを使用します。「DB2 サーバー機能 インストール」のトピック『システムにインストール済みの DB2 製品をリストする (Linux および UNIX)』を参照してください。
- DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィカル・インストーラーです。DB2 セットアップ・ウィザードをマシン上で実行するには、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを表示可能な X Window ソフトウェアが必要です。X Window サーバーが実行中であることを確認してください。ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認します。例えば、`export DISPLAY=9.26.163.144:0` のようにします。
- 使用する環境で Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) などのセキュリティー・ソフトウェアが使用されている場合、DB2 セットアップ・ウィザードを開始する前に、必要な DB2 ユーザーを手動で作成する必要があります。開始する前に、「DB2 サーバー機能 インストール」の『一元的なユーザー管理に関する考慮事項』を参照してください。

注: Network Information Services (NIS) および Network Information Services Plus (NIS+) フィーチャーは、DB2 バージョン 9.1 フィックスパック 2 以降では推奨されなくなりました。これらのフィーチャーは将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。一元的なユーザー管理サービスについて推奨されているソリューションは、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) です。

## このタスクについて

DB2 セットアップ・ウィザードは、すべての DB2 データベース製品のインストールと構成の自動化のための、Java ベースのインストール・ツールです。このウィザードを使用したくない場合は、2 つの代替りの方法があります。DB2 Connect Personal Edition 製品のインストール方法は以下のとおりです。

- 応答ファイル方式を使用する方法。
- **db2setup** コマンドを使用して手動で行う方法。オペレーティング・システムの固有のインストール・ユーティリティー **pkgadd** を使って手動で DB2 データベース製品をインストールすることはできません。DB2 インストールとのインターフェースを取って照会を行うために使用する既存のスクリプトに、この固有のインストール・ユーティリティーが含まれている場合は、変更が必要です。

## 手順

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 Connect Personal Edition を Solaris x64 にインストールするには、以下のようにします。

1. 以下のようにして、DVD がマウントされているディレクトリーに移動します。

```
cd /db2dvd
```

ここで、*db2dvd* は DVD のマウント・ポイントを表します。

2. DB2 Connect 製品イメージをダウンロードした場合、製品ファイルを解凍および `untar` する必要があります。

- a. 製品ファイルの解凍:

```
gzip -d product.tar.gz
```

ここで、`product` はダウンロードした DB2 Connect 製品の名前です。

- b. 製品ファイルの `untar`:

```
tar xvf product.tar
```

- c. ディレクトリーの変更:

```
cd ./product/disk1
```

**注:** National Language Package をダウンロードした場合、それを同じディレクトリーに `untar` します。これにより、サブディレクトリー (`./nlpack/disk2` など) が同じディレクトリー内に作成されて、インストーラーがプロンプトなしで自動的にインストール・イメージを検索できるようになります。

3. 製品イメージが存在するディレクトリーから `./db2setup` コマンドを入力して「DB2 セットアップ」ウィザードを開始します。複数の CD によるインストールでは、マウントされた CD の場所の外部から相対または絶対パス名を指定して `db2setup` コマンドを発行することにより、DB2 Connect 製品 CD を必要に応じてアンマウントできるようにします。程なく IBM DB2 セットアップ・ランチパッドがオープンします。このウィンドウから、インストールの前提条件およびリリース・ノートを表示することができます。あるいは、インストールに直接進むこともできます。
4. インストールを開始したなら、DB2 セットアップ・ウィザードのインストール・パネルに従って、選択を行ってください。「DB2 セットアップ」ウィザードでは、インストール操作のヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、**ヘルプ** をクリックします。「**キャンセル**」を押せば、いつでもインストールを終了できます。「DB2 セットアップ」ウィザードの最後のインストール・パネルで「完了」をクリックしてはじめて DB2 ファイルはシステムにコピーされます。

完了すると、デフォルトのインストール・パス `/opt/IBM/db2/V10.1` を使用して、DB2 Connect Personal Edition がインストールされます。

このディレクトリーが既に使用中のシステム上にインストールする場合、DB2 Connect 製品のインストール・パスには `_xx` が追加されます。`xx` は、01 から始まり、インストールした DB2 コピーの数に応じて増加する数字です。

独自の DB2 Connect 製品のインストール・パスを指定することもできます。

## タスクの結果

National Language Pack は、DB2 Connect 製品がインストールされた後に、`./db2setup` コマンドを National Language Pack が存在するディレクトリーから実行することによってもインストールできます。

インストール・ログの `db2setup.log` および `db2setup.err` は、デフォルトで `/tmp` ディレクトリーに配置されます。ログ・ファイルの場所を指定できます。

ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 データベース製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センター をインストールする必要があります。DB2 インフォメーション・センター には、DB2 データベースおよび DB2 関連製品の資料が収められています。「DB2 サーバー機能 インストール」のトピック『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』を参照してください。

## DB2 Connect 製品のインストール要件 (Solaris)

DB2 Connect 製品を Solaris オペレーティング・システムにインストールする前に、選択したシステムが必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、ソフトウェア、および通信の要件を満たしていることを確認してください。

DB2 Connect 製品を Solaris にインストールするには、以下に示す要件を満たす必要があります。

表 1. Solaris のインストール要件

オペレーティング・システム	ハードウェア
Solaris 10 アップデート 9 • 64 ビット・カーネル	Solaris x64 (Intel 64 または AMD64)
Solaris 10 アップデート 9 • 64 ビット・カーネル	UltraSPARC または SPARC64 プロセッサ

1. ローカル・ゾーンに DB2 製品をインストールすることのみがサポートされません。グローバル・ゾーンへのインストールは現時点では、DB2 製品によってサポートされていません。

### オペレーティング・システムの要件

「推奨 & セキュリティパッチ」を入手する必要があります。

さらに J2SE Solaris オペレーティング・システム Patch Cluster も必要です。

Solaris オペレーティング・システム用の Fujitsu PRIMEPOWER パッチは、FTSI (<http://download.ftsi.fujitsu.com/>) からダウンロードできます。

Solaris 上の DB2 データベース・システムに影響する可能性のある問題の追加リストについては、[www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21257606](http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21257606) を参照してください。

DB2 データベース製品は、Solaris ZFS ファイル・システムおよび Logical Domains (LDom) をサポートします。

DB2 製品がサポートする仮想化テクノロジーについて詳しくは、<http://www.ibm.com/developerworks/wikis/display/im/DB2+Virtualization+Support> を参照してください。

### ソフトウェア要件

- Solaris に DB2 Connect をインストールするには、SUNWlibC ソフトウェアが必要です。
- オンライン・ヘルプを表示するにはブラウザが必要です。

## 通信要件

TCP/IP を使用することができます。

- TCP/IP 接続のために追加のソフトウェアは必要ありません。
- DB2 Connect は、以下の場合に Sun Cluster 2.2 上でサポートされます。
  - ホストに対するプロトコルが TCP/IP である。
  - 2 フェーズ・コミットを使用しない。ユーザーが共有ディスク上に SPM ログが置かれるように構成し (これは、`spm_log_path` データベース・マネージャー構成パラメーターを使えば可能です)、そしてフェイルオーバー・システムに同一の TCP/IP 構成 (同じホスト名、IP アドレスなど) を備えれば、この制約は緩和されます。

## DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Solaris)

Solaris オペレーティング・システムで CD-ROM をドライブに挿入したときに CD-ROM が自動的にマウントされない場合は、`mount` コマンドを発行してください。

### 始める前に

NFS を使用してリモート・システムから CD または DVD ドライブをマウントする場合は、リモート・コンピューター上の CD または DVD ファイル・システムをルート・アクセスによってエクスポートする必要があります。ご使用のローカル・システム構成によっては、ローカル・コンピューター上でもルート・アクセスが必要になる場合があります。

### 手順

Solaris に CD または DVD をマウントするには、以下のようになります。

1. CD または DVD をドライブに挿入します。
2. ボリューム・マネージャー (`vol`) が実行されているシステムの場合、ディスクは、CD または DVD にラベルがある場合には `/cdrom/cd_label` として、ラベルがない場合には `/cdrom/unnamed_cdrom` として、自動的にマウントされます。

ボリューム・マネージャーをシステムで実行しない場合は、以下のようなステップを実行して CD または DVD をマウントしてください。

- a. 以下のコマンドを入力して、装置名を判別します。

```
ls -al /dev/sr* |awk '{print "/" $11}'
```

このコマンドは、CD または DVD 装置名を戻します。この例では、コマンドはストリング `/dev/dsk/c0t6d0s2` を戻します。

- b. 以下のコマンドを入力して、CD または DVD をマウントします。

```
mkdir -p /cdrom/unnamed_cdrom  
mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s2 /cdrom/unnamed_cdrom
```

`/dev/dsk/c0t6d0s2` は、前のステップで戻された装置名を表し、`/cdrom/unnamed_cdrom` は、CD または DVD マウント・ディレクトリーを表します。

3. ログアウトします。



## タスクの結果

CD または DVD ファイル・システムがマウントされます。ディスクをドライブに挿入し、**cd /cdrom** コマンドを入力すると、CD または DVD の内容が表示されます。ここで、**cdrom** はマウント・ポイント・ディレクトリーです。

## DB2 Connect の CD または DVD のマウント (Solaris)

Solaris オペレーティング・システムで CD-ROM をドライブに挿入したときに CD-ROM が自動的にマウントされない場合は、**mount** コマンドを発行してください。

### 始める前に

NFS を使用してリモート・システムから CD または DVD ドライブをマウントする場合は、リモート・コンピューター上の CD または DVD ファイル・システムをルート・アクセスによってエクスポートする必要があります。ご使用のローカル・システム構成によっては、ローカル・コンピューター上でもルート・アクセスが必要になる場合があります。

### 手順

Solaris に CD または DVD をマウントするには、以下のようになります。

1. CD または DVD をドライブに挿入します。
2. ボリューム・マネージャー (**vol**) が実行されているシステムの場合、ディスクは、CD または DVD にラベルがある場合には `/cdrom/cd_label` として、ラベルがない場合には `/cdrom/unnamed_cdrom` として、自動的にマウントされます。

ボリューム・マネージャーをシステムで実行しない場合は、以下のようなステップを実行して CD または DVD をマウントしてください。

- a. 以下のコマンドを入力して、装置名を判別します。

```
ls -al /dev/sr* |awk '{print "/" $11}'
```

このコマンドは、CD または DVD 装置名を戻します。この例では、コマンドはストリング `/dev/dsk/c0t6d0s2` を戻します。

- b. 以下のコマンドを入力して、CD または DVD をマウントします。

```
mkdir -p /cdrom/unnamed_cdrom  
mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s2 /cdrom/unnamed_cdrom
```

`/dev/dsk/c0t6d0s2` は、前のステップで戻された装置名を表し、`/cdrom/unnamed_cdrom` は、CD または DVD マウント・ディレクトリーを表します。

3. ログアウトします。

## タスクの結果

CD または DVD ファイル・システムがマウントされます。ディスクをドライブに挿入し、**cd /cdrom** コマンドを入力すると、CD または DVD の内容が表示されます。ここで、**cdrom** はマウント・ポイント・ディレクトリーです。

---

## DB2 Connect Personal Edition のインストール (Windows)

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、DB2 Connect Personal Edition を Windows オペレーティング・システムへインストールすることができます。IBM Data Server Driver Package (DS Driver) をインストールしてから、DB2 Connect Personal Edition のライセンスを適用する方法が、以下のセクションにリストするプロセスの代わりに推奨される方法です。詳しくは、IBM データ・サーバー・クライアントのタイプを参照してください。

### 始める前に

DB2 セットアップ・ウィザードを起動する前に、以下のことを行ってください。

- システムが以下の要件を満たしていることを確認します。
  - ハードウェアおよびソフトウェアの要件
  - ディスクおよびメモリーの要件
- Windows にインストールしてから、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用する予定の場合、ディレクトリー・スキーマを拡張しなければなりません。
- インストールを実行するときは、管理者アカウントを使用することをお勧めします。その管理者アカウントは、DB2 データベース製品のインストール先の Windows コンピューターで、ローカル管理者グループに所属していなければならず、また以下のような拡張ユーザー権限をもっていなければなりません。
  - オペレーティング・システムの一部として機能
  - トークン・オブジェクトの作成
  - クォータの増加
  - プロセス・レベル・トークンの置き換えこれらの拡張ユーザー権限がなくてもインストールを実行することはできますが、セットアップ・プログラムでアカウントの妥当性検査ができない可能性があります。
- 非管理者アカウントを使って DB2 Connect をインストールする場合、『『非管理者による DB2 Connect のインストール (Windows)』』のトピックを参照してください。

### 手順

- DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 Connect Personal Edition をインストールするには、次のようにします。
  1. 管理者権限をもったユーザーとしてシステムにログオンします。
  2. すべてのプログラムをクローズし、インストール・プログラムが必要に応じてファイルを更新できるようにします。
  3. ご使用のコンピューターに IBM Data Server Client がインストールされている場合は、そのコンピューターに DB2 Connect Personal Edition ライセンスを登録することにより、DB2 Connect Personal Edition をアクティブにすることができます。**setup** プログラムを実行して DB2 Connect Personal Edition をインストールする場合は、残りのステップに従ってください。
  4. DVD をドライブに挿入します。自動実行フィーチャーによって DB2 セットアップ・ウィザードが自動的に起動します。DB2 セットアップ・ウィザード



は、システム言語を判別してから、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。セットアップ・プログラムを別の言語で実行する場合や、セットアップ・プログラムが自動開始しない場合、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で実行することができます。

5. DB2 ランチパッドが開きます。このウィンドウから、インストールの前提条件およびリリース・ノートを表示することができます。あるいは、インストールに直接進むこともできます。
6. インストールを開始したら、セットアップ・プログラムの指示に従って作業を進めてゆきます。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、**ヘルプ** をクリックします。「**キャンセル**」を押せば、いつでもインストールを終了できます。

ログ・ファイルは、インストールおよびアンインストールで生じた一般情報とエラー・メッセージを保管します。ログのファイル名は、DB2-製品の略称-日時.log の形式になります ( DB2-CLIENT-10-06-2006\_17\_23\_42.log など)。デフォルトでは、ログ・ファイルは My Documents¥DB2LOG ディレクトリに作成されます。

- 手動で DB2 セットアップ・ウィザードを起動するには、以下のようになります。
  1. 「**スタート**」をクリックし、「**ファイル名を指定して実行**」オプションを選択します。
  2. 「**名前**」フィールドで、次のコマンドを入力します。

```
x:¥setup /i language
```

ここで、

- *x:* は使用する DVD ドライブを表します。
- *language* は言語に関する Territories・コードを表します (例えば、英語では EN になります)。

3. 「**OK**」をクリックします。

ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 データベース製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センター をインストールする必要があります。DB2 インフォメーション・センター には、DB2 データベース・システムおよび関連製品の資料が収められています。

## DB2 Connect Personal Edition のインストール要件 (Windows)

DB2 Connect Personal Edition を Windows オペレーティング・システムにインストールする前に、選択したシステムが必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、ソフトウェア、および通信の要件を満たしていることを確認してください。

DB2 Connect Personal Edition をインストールするには、以下に示す要件を満たす必要があります。

### オペレーティング・システムの要件

以下のいずれかです。

- Windows XP Professional Edition (32 ビットおよび 64 ビット) (Service Pack 3 以降を適用)
- Windows 2003 (Service Pack 2 以降を適用)
  - Standard Edition (32 ビットおよび 64 ビット)

- Enterprise Edition (32 ビットおよび 64 ビット)
- Datacenter Edition (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Vista (Service Pack 2 以降を適用)
  - Business Edition (32 ビットおよび x64)
  - Enterprise Edition (32 ビットおよび x64)

すべての Windows Vista Service Packs がサポートされています。

- Windows 7 (Service Pack 1 以降を適用)
  - Professional Edition (32 ビットおよび x64)
  - Enterprise Edition (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 (Service Pack 2 以降を適用)
  - Standard Edition (32 ビットおよび 64 ビット)
  - Enterprise Edition (32 ビットおよび 64 ビット)
  - Datacenter Edition (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Server 2008 R2
  - Standard Edition (64 ビット)
  - Enterprise Edition (64 ビット)
  - Datacenter Edition (64 ビット)

すべての Windows Server 2008 R2 Service Pack がサポートされています。

#### ハードウェア要件

- サポートされている Windows オペレーティング・システム (32 ビットおよび x64 ベースのシステム) を実行できる Intel および AMD のすべてのプロセッサ。

#### ソフトウェア要件

- オンライン・ヘルプを表示するにはブラウザが必要です。

#### 通信要件

- TCP/IP がサポートされています。TCP/IP はオペレーティング・システムによって提供されています。

#### Windows (64 ビット) の考慮事項

- 旧バージョンの 32 ビットのリモート・クライアントから送信された SQL 要求はサポートされています。

#### フィーチャー

このエディションの DB2 Connect は、パーソナル・ワークステーションとしての使用、およびアプリケーション接続を目的としています。サーバーやゲートウェイの機能は使用できません。このエディションで提供されているフィーチャーに関する詳細は、<http://www.ibm.com/software/data/db2/db2connect/edition-pe.html> を参照してください。

このエディションの DB2 Connect は、アプリケーション・サーバーを使用可能にすることを目的としていません。そのため、そのようなサーバー上にはインストールしないでください。

## DB2 Connect Personal Edition のインストールに必要なユーザー・アカウント (Windows)

Windows 上で DB2 Connect Personal Edition 製品をインストールする場合には、インストール・ユーザー・アカウントが必要です。

インストール・ユーザー・アカウントとは、インストールを実行するユーザーのアカウントです。インストール・ユーザー・アカウントは、DB2 セットアップ・ウィザードの実行に先立って定義する必要があります。セットアップ・ユーザー・アカウントは、インストールの前に定義することもできますし、DB2 セットアップ・ウィザードで作成することもできます。

すべてのユーザー・アカウント名は、ご使用のシステムの命名規則と DB2 命名規則に従ったものでなければなりません。

DB2 命名規則で指定されていない、英語以外の文字を含むインストール・ユーザー・アカウントを使用すると、DB2 のインストールは失敗します。

インストールを実行するには、ローカルまたはドメイン・ユーザー・アカウントが必要です。通常、このユーザー・アカウントは、インストールを実行するコンピューター上で、管理者グループに属していなければなりません。

あるいは、非管理者ユーザー・アカウントを使用できます。この代替方法では、先に Windows 管理者グループのメンバーが、非管理者ユーザー・アカウントがインストールを実行できるよう Windows システム特権の設定を構成しておく必要があります。例えば、64 ビットのオペレーティング・システムでは、DB2 Connect Personal Edition をインストールする前に、HKLM\Software\Wow6432Node への完全な権限を手動で付与する必要があります。Windows Vista では、非管理者はインストールを実行できますが、DB2 セットアップ・ウィザードによって管理の資格情報の入力を求められます。

インストール・ユーザー・アカウントには、「ネットワーク経由でこのコンピュータへアクセス」というユーザー権限が必要です。

ドメイン・アカウントの場合、ユーザー ID を検査するには、インストール・ユーザー ID が、アカウントを作成するドメイン上のドメイン管理者グループに属していなければなりません。

組み込みのローカル・システム・アカウントを使用して、すべての製品のインストールを実行することもできます。

### DB2 インストーラーによって与えられるユーザー権利

DB2 インストール・プログラムは、「プログラムのデバッグ」というユーザー権利は与えません。DB2 インストーラーが与えるユーザー権利は、以下のとおりです。

- オペレーティング・システムの一部として機能
- トークン・オブジェクトの作成
- メモリー内のページのロック
- サービスとしてログオン

- クォータの増加
- プロセス・レベル・トークンの置き換え

## 拡張セキュリティ (Windows)

DB2 製品は、拡張 Windows セキュリティーを備えています。ユーザー ID を使用して DB2 Connect Personal Edition をインストールできますが、そのユーザー ID が DB2ADMNS または DB2USERS グループのいずれかに属していない場合は、そのユーザー ID は DB2 コマンドを実行できません。

これらの 2 つの新しいグループは、DB2 インストーラーによって作成されます。カスタム・インストールで新しい名前を指定することも、デフォルト名をそのまま受け入れることもできます。

このセキュリティ・フィーチャーを有効にするには、DB2 のインストール時に、「DB2 オブジェクトのためにオペレーティング・システム・セキュリティを使用可能にする」パネルで、「オペレーティング・システム・セキュリティを使用可能にする」チェック・ボックスを選択します。「DB2 管理者グループ」フィールドと「DB2 ユーザー・グループ」フィールドで、デフォルト値を受け入れます。デフォルトのグループ名は DB2ADMNS と DB2USERS です。既存のグループ名と競合する場合、グループ名を変更するようプロンプトが出されます。必要であれば、独自の値を指定できます。

## LDAP ディレクトリー・サービス用の Active Directory スキーマの拡張 (Windows)

Windows Server 2003 で Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー・フィーチャーを使用する予定の場合、**db2schex** コマンドを使用して、Active Directory スキーマを拡張して、DB2 オブジェクト・クラスと属性定義を組み込まなければなりません。

### このタスクについて

DB2 データベース製品をインストールし、データベースを作成する前に、ディレクトリー・スキーマを拡張することには、以下の利点があります。

- インストールの際に作成されるデフォルト DB2 インスタンスは、インストール・ユーザー ID に Active Directory に書き込むための十分な特権があれば、Active Directory 内に DB2 ノードとしてカタログされます。
- インストール後に作成されたデータベースは、Active Directory 内に自動的にカタログされます。

### 手順

ディレクトリー・スキーマを拡張するには、次のようにします。

1. Windows ドメインの一部である任意のマシンに、スキーマ管理者権限のある Windows ユーザー・アカウントでログオンします。
2. インストール DVD から **db2schex** コマンドを実行します。このコマンドは、以下のように、ログオフおよびログオンを繰り返すことなく実行できます。

```
runas /user:MyDomain\Administrator x:%db2%\Windows\utilities\db2schex.exe
```

x: は DVD ドライブ名です。

## 次のタスク

**db2schex** が完了したら、DB2 データベース製品のインストールに進むことができます。または、すでに DB2 データベース製品がインストールされているか、データベースが作成されている場合、手動でノードを登録し、データベースをカタログする必要があります。詳しくは、『DB2 インストールが完了した後で LDAP サポートを使用可能にする』のトピックを参照してください。

## LDAP ディレクトリー・サービス用の Active Directory スキーマの拡張 (Windows)

Windows Server 2003 で Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー・フィーチャーを使用する予定の場合、**db2schex** コマンドを使用して、Active Directory スキーマを拡張して、DB2 オブジェクト・クラスと属性定義を組み込まなければなりません。

### このタスクについて

DB2 データベース製品をインストールし、データベースを作成する前に、ディレクトリー・スキーマを拡張することには、以下の利点があります。

- インストールの際に作成されるデフォルト DB2 インスタンスは、インストール・ユーザー ID に Active Directory に書き込むための十分な特権があれば、Active Directory 内に DB2 ノードとしてカタログされます。
- インストール後に作成されたデータベースは、Active Directory 内に自動的にカタログされます。

### 手順

ディレクトリー・スキーマを拡張するには、次のようにします。

1. Windows ドメインの一部である任意のマシンに、スキーマ管理者権限のある Windows ユーザー・アカウントでログオンします。
2. インストール DVD から **db2schex** コマンドを実行します。このコマンドは、以下のように、ログオフおよびログオンを繰り返すことなく実行できます。

```
runas /user:MyDomain\Administrator x:%db2%Windows%utilities%db2schex.exe
```

x: は DVD ドライブ名です。

## 次のタスク

**db2schex** が完了したら、DB2 データベース製品のインストールに進むことができます。または、すでに DB2 データベース製品がインストールされているか、データベースが作成されている場合、手動でノードを登録し、データベースをカタログする必要があります。詳しくは、『DB2 インストールが完了した後で LDAP サポートを使用可能にする』のトピックを参照してください。

## 非管理者による DB2 Connect (Windows) のインストール

非管理者ユーザーのアカウントを使用して Windows オペレーティング・システムに DB2 Connect をインストールする場合は、追加の考慮事項があります。

非管理者のインストールの場合は、ログオンするアカウントが Power® Users グループに属していなければなりません。

レジストリーで表示される DB2 Connect の情報の一部は、レジストリーの HKEY\_CURRENT\_USER フォルダーに入力しなければなりません。DB2 Connect の非管理者のインストールのレジストリーの下には、HKEY\_LOCAL\_MACHINE フォルダーに多くの項目が保管されますが、HKEY\_CURRENT\_USER で環境設定を変更しなければなりません。

Windows 管理者グループのメンバーは、非管理者ユーザーのアカウントでインストールを実行できるようにするために、Windows システム特権の設定を構成する必要があります。例えば、64 ビットのオペレーティング・システムでは、32 ビットの DB2 Connect Personal Edition 製品をインストールする前に、HKLM¥Software¥Wow6432Node への完全な権限を手動で付与する必要があります。

注: 非管理者ユーザー・アカウントで製品のインストールを実行する場合、DB2 製品のインストールを試行する前に、VS2010 ランタイム・ライブラリーをインストールする必要があります。DB2 製品をインストールする前に、オペレーティング・システムには VS2010 ランタイム・ライブラリーが必要です。VS2010 ランタイム・ライブラリーは、Microsoft ランタイム・ライブラリーのダウンロード Web サイトから入手できます。2 つの選択肢があり、32 ビット・システムの場合は vcredist\_x86.exe を、64 ビット・システムの場合は vcredist\_x64.exe を選択します。

非管理者のインストールの場合には、システム・ショートカットはユーザー・ショートカットに変更されなければなりません。さらに、DB2 Connect 製品をインストールするにはサービスが必要ですが、管理権限がなければこれを作成することができません。したがって、非管理者のインストールの際には、自動的に開始されるサービスはプロセスとして実行されます。

以下のシナリオは、管理者と非管理者の両方のインストールが存在する環境で発生する可能性のあるインストール状態を示しています。

- 非管理者が DB2 Connect をインストールした後で、管理者が同じシステムに DB2 Connect をインストールしようとします。管理者は、同製品はすでにインストール済みであるというメッセージを受け取ります。管理者は、その状況に対処するための製品のアンインストールと再インストールの権限をもっています。
- 非管理者が DB2 Connect をインストールした後で、別の非管理者が同じシステムに DB2 Connect をインストールしようとします。このシナリオでは、インストールをしようとしても失敗し、ユーザーが製品をインストールするには管理者でなければならないという旨のエラー・メッセージが戻されます。
- 管理者が DB2 Connect をインストールした後で、非管理者が同じシステムに DB2 Connect をインストールしようとします。このシナリオでは、インストールをしようとしても失敗し、ユーザーが製品をインストールするには管理者でなければならないという旨のエラー・メッセージが戻されます。管理者はアンインストールまたは再インストールする権限を常にもっています。
- 非管理者ユーザーは、DB2 製品をアンインストールできません。Windows Vista (およびそれ以降の) オペレーティング・システム上のそれら非管理者ユーザーは、DB2 製品をアンインストールできます。



---

## 第 4 章 ユーザー ID 管理

DB2 Connect Personal Edition のインストール後に行う主要なタスクは、DB2ADMNS および DB2USERS というデフォルト名を持つ 2 つのユーザー・グループのいずれかにユーザーを追加することです。このタスクは、データベース環境に対してインプリメントするデータベース・セキュリティ・ポリシーの一部として実行されます。

---

### DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グループへのユーザー ID の追加 (Windows)

DB2 のインストールが正常に完了したら、ローカルの DB2 アプリケーションおよびツールをマシン上で実行する必要があるユーザーを DB2ADMNS または DB2USERS グループに追加します。DB2 インストーラーは 2 つの新しいグループを作成します。新しい名前を使用するか、デフォルト名を受け入れることができます。デフォルトのグループ名は DB2ADMNS と DB2USERS です。このプロセスはインスタンス・ベースのクライアントにも適用可能です。

#### 始める前に

- DB2 データベース製品のインストールが完了している必要があります。
- DB2 データベース製品のインストール時に、「DB2 のオブジェクトに関するオペレーティング・システムのセキュリティを有効にする」パネルで、「オペレーティング・システムのセキュリティを有効にする」チェック・ボックスを選択している必要があります。

#### 手順

ユーザーを適切なグループに追加するには、以下の手順に従います。

1. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. `lusrmgr.msc` と入力して「OK」をクリックします。
3. 「ローカル・ユーザーおよびグループ (Local Users and Groups)」を選択します。
4. 「ユーザー」を選択します。
5. 追加するユーザーを選択します。
6. 「プロパティ」をクリックします。
7. 「メンバーの所属先 (Member Of)」タブをクリックします。
8. 「追加」をクリックします。
9. 適切なグループを選択します。
10. 「OK」をクリックします。

#### 次のタスク

インストール時に新しいセキュリティ・フィーチャーを有効にしない設定を選択した場合でも、インストール後に `db2extsec.exe` コマンドを実行することによって

有効にすることができます。グループへのユーザーの追加が有効になるのは、ユーザーの追加後、そのユーザーが最初にログオンする時です。例えば、ユーザー ID を DB2ADMNS グループに追加する場合、この変更を有効にするにはログアウトしてから、再びログインする必要があります。

---

## DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グループへのユーザー ID の追加 (Windows)

DB2 のインストールが正常に完了したら、ローカルの DB2 アプリケーションおよびツールをマシン上で実行する必要があるユーザーを DB2ADMNS または DB2USERS グループに追加します。DB2 インストーラーは 2 つの新しいグループを作成します。新しい名前を使用するか、デフォルト名を受け入れることができます。デフォルトのグループ名は DB2ADMNS と DB2USERS です。このプロセスはインスタンス・ベースのクライアントにも適用可能です。

### 始める前に

- DB2 データベース製品のインストールが完了している必要があります。
- DB2 データベース製品のインストール時に、「DB2 のオブジェクトに関するオペレーティング・システムのセキュリティを有効にする」パネルで、「オペレーティング・システムのセキュリティを有効にする」チェック・ボックスを選択している必要があります。

### 手順

ユーザーを適切なグループに追加するには、以下の手順に従います。

1. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. `lusrmgr.msc` と入力して「OK」をクリックします。
3. 「ローカル・ユーザーおよびグループ (Local Users and Groups)」を選択します。
4. 「ユーザー」を選択します。
5. 追加するユーザーを選択します。
6. 「プロパティ」をクリックします。
7. 「メンバーの所属先 (Member Of)」タブをクリックします。
8. 「追加」をクリックします。
9. 適切なグループを選択します。
10. 「OK」をクリックします。

### 次のタスク

インストール時に新しいセキュリティ・フィーチャーを有効にしない設定を選択した場合でも、インストール後に `db2extsec.exe` コマンドを実行することによって有効にすることができます。グループへのユーザーの追加が有効になるのは、ユーザーの追加後、そのユーザーが最初にログオンする時です。例えば、ユーザー ID を DB2ADMNS グループに追加する場合、この変更を有効にするにはログアウトしてから、再びログインする必要があります。



---

## 第 4 部 DB2 Connect 通信の準備



---

## 第 5 章 DB2 Connect からの接続のための IBM DB2 for IBM i の準備

DB2 Connect を使ってリモート・システム・アプリケーションは、IBM DB2 for IBM i システム上のデータにアクセスできます。

### 手順

この接続をセットアップするには、以下の情報を知っておく必要があります。

1. ローカル・ネットワーク名。 **DSPNETA** と入力して、この情報を得ることができます。
2. ローカル・アダプター・アドレス。 **WRKLIND** コマンドを次の方法のいずれかで入力して、この情報を得ることができます。

#### **WRKLIND (\*e1an)**

イーサネット・アダプターをリストします。

#### **WRKLIND (\*tr1an)**

トークンリング・アダプターをリストします。

#### **WRKLIND (\*a11)**

すべてのアダプターをリストします。

3. ホスト名。 **DSPNETA** と入力して、この情報を得ることができます。
4. TCP/IP ポートまたはサービス名。デフォルトは X'07'6DB (X'07F6C4C2') です。DB2 for iは、必ずデフォルトを使用します。 16 進数を入力するかわりに、別名 QCNTEDDM を入力できます。
5. リレーショナル・データベース名。 **DSPRDBDIRE** と入力して、この情報を得ることができます。これによりリストが表示されます。リモート・ロケーション列に \*LOCAL が含まれている行は、クライアントに定義する必要のある RDBNAME を示します。 \*LOCAL 項目がない場合は、サーバー上で **DSPNETA** コマンドで得られるシステム名を使用するか、新たに追加できます。

## タスクの結果

例を以下に示します。

```

リレーショナル・データベースのディレクトリー項目の表示

Position to . . . . .
Type options, press Enter.
  5=Display details  6=Print details

          Relational          Remote
Option    Database          Location Text

-          _____
-          DLHX              RCHAS2FA
-          JORMT2FA          JORMT2FA
-          JORMT4FD          JORMT4FD
-          JOSNAR7B          RCHASR7B
-          RCHASR7B          *LOCAL
-          RCHASR7C          RCHASR7C
-          R7BDH3SNA          RCH2PDH3
-          RCHASDH3          RCHASDH3
  
```

IBM Power Systems サーバーからこれらのパラメーターを取得したら、次のワークシートに値を入力してください。

表 2. IBM Power Systems からの構成パラメーター

項目	パラメーター	例	使用値
A-1	ローカル・ネットワーク名	SPIFNET	
A-2	ローカル・アダプター・アドレス	400009451902	
A-4	ホスト名	SYD2101A	
A-5	TCP/IP ポートまたはサービス名	X'07F6C4C2' (デフォルト)	
A-6	リレーショナル・データベース名	NEW_YORK3	

詳細については、「DB2 Server (VSE および VM 版) SQL リファレンス」(SC88-8647) の『DRDA の考慮事項』の節を参照してください。

---

## 第 6 章 DB2 Connect からの接続のための DB2 for z/OS の準備

DB2 Connect を使ってリモート・システム・アプリケーションは、DB2 for z/OS システム上のデータにアクセスできます。

### 始める前に

DB2 for z/OS がマルチサイト更新トランザクション (2 フェーズ・コミット) に参与する予定の場合は、「DB2 Connect ユーザーズ・ガイド」のマルチサイト更新の使用可能化について説明しているトピックを参照してください。

### このタスクについて

このトピックでは、DB2 Connect サーバーまたは DB2 Connect クライアントと DB2 for z/OS との間の TCP/IP ネットワーク接続を確立する方法を説明します。

### 手順

DB2 Connect からの接続要求を受け入れるように DB2 for z/OS を準備するには、以下のようにプロトコルを構成する必要があります。

- 38 ページの『DB2 for z/OS 用の TCP/IP の構成』
- 
- 41 ページの『DB2 for z/OS の構成』

---

## ホスト・データベース

データベース という用語は、この資料を通してリレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) の記述について使用されます。DB2 Connect が通信する他のシステムでは、若干異なる概念を記述するためにデータベースという用語が使用される場合があります。DB2 Connect において、データベースという用語は次のものも指します。

### System z

DB2 for z/OS. LOCATION NAME によって識別される DB2 for z/OS サブシステム。z/OS の **-display ddf** コマンドを使用すれば、DB2 サーバーのロケーション名、ドメイン名、IP アドレス、ポート番号を確認できます。

DB2 for z/OS のロケーションは、データベース・サーバーの固有の名前です。アプリケーションはロケーション名を使用して DB2 for z/OS サブシステムまたは DB2 for z/OS データ共有グループにアクセスします。データ共有グループによって、さまざまな DB2 サブシステム上のアプリケーションが同じデータを同時に読み書きできます。アプリケーションは、DB2 データ共有グループのネットワーク・アドレスを使用して、DB2 のデータ共有のロケーションにアクセスします。アクセスされた DB2 サブシステムは、アプリケーションによっては認識されません。

DB2 for z/OS は、同じ DB2 ロケーションに複数のデータベースが存在することをサポートしているため、ロケーション名は Linux、UNIX、および Windows のデータベース別名と類似しています。データベース別名を使用して、ロケーションへのアクセス時にロケーションまたはロケーション別名をオーバーライドすることができます。ロケーション別名は、ロケーションのもう 1 つの名前です。これは、データ共有グループ内のどのサブシステムがアプリケーションによってアクセスされるかを制御するために使用されます。

さらに、LOCATION NAME はブートストラップ・データ・セット (BSDS) でも定義されており、DSNL004I メッセージ (LOCATION=location) に表示されます。これは、分散データ機能 (DDF) の起動時に書き込まれます。LOCATION NAME は、最高 8 個までの別名ロケーション名をサポートしているため、アプリケーションは、バージョン 8 の z/OS サーバーにアクセスするためにさまざまな dbalias 名を使用できます。

### IBM Power Systems サーバー

IBM DB2 for IBM i。IBM i オペレーティング・システムの統合された部分。IBM Power Systems サーバー上には 1 つのデータベースだけを配置できます (ただし、独立した補助ストレージ・プールを使用するようにシステムを構成している場合は別です)。

---

## DB2 for z/OS 用の TCP/IP の構成

DB2 Connect ワークステーションとバージョン 8 以降の DB2 for z/OS との間の TCP/IP 通信を構成するには、まずホスト・データベース・サーバーに関するネットワークの詳細を収集する必要があります。

### 始める前に

この説明では、以下を前提としています。

- TCP/IP 経由で単一のホスト・データベース・サーバーまたはロケーションに接続している。それぞれの場合に必要ポート番号 とサービス番号 が異なっていても、複数のホスト接続を全く同じ方法で処理します。グループの IP アドレスを使用して、グループのロケーションに接続します。
- ターゲット・データベースが DB2 for z/OS バージョン 8 以降にある。
- 必要なすべての前提条件ソフトウェアがインストールされている。
- 必要なだけの DB2 クライアントがセットアップされている。

### 手順

1. TCP/IP 接続によって DB2 Connect を使用できるようになるには、その前にホスト・データベース・サーバーと DB2 Connect サーバーの両方についての情報を収集する必要があります。TCP/IP によって接続しているそれぞれのホスト・サーバーについては、以下の情報が必要です。
  - DB2 Connect ワークステーションでの TCP/IP services ファイルおよび hosts ファイルの位置

#### UNIX および Linux の場合

/etc/

## Windows XP および Windows Server 2003 の場合

通常は、`%SystemRoot%\system32\drivers\etc\`。 `%SystemRoot%` は、Windows インストール・パス・ディレクトリーを示します。

ドメイン・ネーム・サーバー にホスト情報を追加すれば、複数のシステムでそれぞれこのファイルを保守しなくてもよいようになります。

- ターゲット DB2 for z/OS ホストでの等価ファイルの位置。
- DB2 for z/OS に対して定義される TCP/IP ポート番号。

注: 関連するサービス名情報は、DB2 Connect ワークステーションと DB2 for z/OS との間で交換されません。

ポート番号 446 は、DB2 Connect ワークステーションからの通信のデフォルトとして登録されています。

- ホストおよび DB2 Connect ワークステーションの両方の TCP/IP アドレスおよびホスト名。
  - DB2 for z/OS データベース・サーバーのロケーション名。
  - IBM メインフレーム・サーバーでデータベースに対して CONNECT 要求を出すときに使用されるユーザー ID およびパスワード。
2. この情報を入手するには、ローカル・ネットワーク管理者および DB2 for z/OS 管理者にお問い合わせください。DB2 Connect とホスト・データベース・サーバーの間にそれぞれの TCP/IP 接続を計画するためのワークシートとして、以下の表を使用してください。

表 3. ユーザー情報

参照番号	説明	サンプル値	使用値
TCP-1	ユーザー名	A.D.B.User	
TCP-2	連絡先	(123)-456-7890	
TCP-5	ユーザー ID	ADBUSER	
TCP-6	データベース・タイプ	db2390	
TCP-7	接続タイプ (TCPIP でなければならぬ)	TCPIP	TCPIP

表 4. ホストでのネットワーク・エレメント

参照番号	説明	サンプル値	使用値
TCP-8	ホスト名	MVSHOST	
TCP-9	ホスト IP アドレス	9.21.152.100	
TCP-10	サービス名	db2inst1c	
TCP-11	ポート番号	446	446
TCP-12	ロケーション名	NEW_YORK3	
TCP-13	ユーザー ID		
TCP-14	パスワード		

### 注:

- a. ホストの IP アドレス TCP-9 を獲得するには、ホストで以下のように入力します。

- b. ポート番号 TCP-11 を獲得するには、DB2 マスター・アドレス・スペースまたはシステム・ログで DSNL004I を検索します。

表 5. DB2 Connect クライアントとサーバーでのネットワーク・エレメント

参照番号	説明	サンプル値	使用値
TCP-18	ホスト名	mcook02	
TCP-19	IP アドレス	9.21.27.179	
TCP-20	サービス名	db2inst1c	
TCP-21	ポート番号	446	446

表 6. DB2 Connect サーバーでの DB2 ディレクトリー項目

参照番号	説明	サンプル値	使用値
TCP-30	ノード名	MVSIPNOD	
TCP-31	データベース名	nyc3	
TCP-32	データベース別名	mvsipdb1	
TCP-33	DCS データベース名	nyc3	

3. 以下のように、それぞれの TCP/IP ホストごとに、ワークシートを完成します。
  - a. DB2 for z/OS ホストのホスト名および IP アドレス (TCP-8 および TCP-9) に使用される値を入力する。
  - b. DB2 Connect ワークステーションのホスト名および IP アドレス (TCP-18 および TCP-19) に使用される値を入力する。
  - c. 接続で使用されるサービス名、またはポート番号 (TCP-10 か TCP-20、または TCP-11 か TCP-21) を判別します。
  - d. 接続先の DB2 for z/OS データベース・サーバーのロケーション名。
  - e. ホスト・データベースに接続するときにユーザー ID およびパスワードに使用される値を判別します。
4. System z サーバーで以下を行います。
  - a. ホスト・アドレスまたはホスト名を調べる。
  - b. ポート番号またはサービス名を調べる。
  - c. 必要なら、正しいポート番号とサービス名を使って services ファイルを更新する。
  - d. 必要なら、DB2 Connect ワークステーションのホスト名と IP アドレスを使って、hosts ファイル (または DB2 for z/OS システムが使用するドメイン・ネーム・サーバー) を更新する。
  - e. 接続をテストする前に、新しい定義がアクティブであることを確認する。必要に応じて、ホスト・ネットワーク管理者に相談するか、またはコントロール・スタッフを変更してください。
  - f. 有効なユーザー ID、パスワード、およびデータベース LOCATION NAME を持つ DB2 for z/OS 管理者を調べる。
  - g. DB2 Connect サーバーを PING する (ポート番号を指定するオプションがホスト・システム上で TCP/IP によってサポートされている場合、正しいポート番号を使用する)。例えば、次のようにします。



```
ping remote_host_name -p port_number
```

System z サーバーのサポートは、<http://www.ibm.com/servers/eserver/support/zseries/> で得られます。

---

## DB2 for z/OS の構成

DB2 Connect を使用するには、その前に DB2 for z/OS管理者が DB2 for z/OSを構成し、DB2 Connectワークステーションからの接続を許可する必要があります。

### このタスクについて

この項では、DB2 Connect クライアントが DB2 for z/OSデータベース・サーバーに接続できるようにするために必要な最小 更新を示します。さらに詳細な例については、DB2 for z/OS のインストールに関する資料 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/imzic> )、または DB2 for z/OS のインストール・マニュアルにある DDF のインストールに関するステップを参照してください。



---

## 第 7 章 DB2 Connect からの接続のための DB2 for VSE & VM の準備

### このタスクについて

DB2 Server for VM and VSE をアプリケーション・サーバーとしてセットアップする方法の詳細については、「*DB2 Server (VSE および VM 版) SQL リファレンス*」(SC88-8647) の『DRDA の考慮事項』の節を参照してください。



---

## 第 8 章 メインフレームおよびミッドレンジへの接続の構成

DB2 Connect がインストールされ、データベース・サーバーが通信を受け入れるように構成された後、2 つのシステム間の接続を確立して微調整する必要があります。リモート・システムへの接続は、どちらもコマンド行プロセッサ (CLP) を使用して行われます。

---

### IBM メインフレーム・データベース・サーバーへの接続の構成

DB2 コマンド行プロセッサ (CLP) を使用して、DB2 Connect サーバーと、IBM メインフレーム・データベースとの間の TCP/IP 接続を手動で構成することができます。db2dsdriver.cfg を使用した接続の構成については、db2dsdriver 構成ファイルに関するトピックを参照してください。

#### 始める前に

DB2 Connect と IBM メインフレーム・データベース・サーバーとの間の TCP/IP 接続を手動で構成する前に、以下の点を確認してください。

- DB2 Connect サーバー、および IBM メインフレーム・システム上で TCP/IP が機能していること。
- 以下のパラメーター値を確認済みであること。
  - ホスト名 (*hostname*) または IP アドレス (*ip\_address*)
  - 接続サービス名 (*svcname*) またはポート番号/プロトコル (*port\_number/tcp*)
  - ターゲット・データベース名 (*target\_dbname*)
  - ローカル・データベース名 (*local\_dcsname*)
  - ノード名 (*node\_name*)

#### 手順

DB2 Connect サーバーと、ホストまたは IBM メインフレーム・データベースの間で TCP/IP 通信を手動で構成するには、次のようにします。

1. DB2 Connect サーバーで TCP/IP を構成します。38 ページの『DB2 for z/OS 用の TCP/IP の構成』を参照してください。
2. TCP/IP ノードをカタログします。「コマンド・リファレンス」にある『CATALOG TCPIP/TCPIP4/TCPIP6 NODE コマンド』のトピックを参照してください。
3. IBM メインフレーム・データベースをデータベース接続サービス (DCS) データベースとしてカタログします。「コマンド・リファレンス」にある『CATALOG DCS DATABASE コマンド』のトピックを参照してください。
4. IBM メインフレーム・データベースをカタログします。「コマンド・リファレンス」にある『CATALOG DATABASE コマンド』のトピックを参照してください。

5. ユーティリティおよびアプリケーションを IBM メインフレーム・データベース・サーバーにバインドします。63 ページの『DB2 Connect 上でのデータベース・ユーティリティのバインディング』を参照してください。
6. IBM メインフレーム接続をテストします。「SQL リファレンス 第 2 巻」にある『CONNECT (タイプ 1) ステートメント』のトピックを参照してください。

## タスクの結果

注: TCP/IP プロトコルの特性上、TCP/IP は、もう一方の IBM メインフレームで生じたパートナーの障害について即時に通知を受けない場合があります。結果として、TCP/IP を使用してリモート DB2 サーバーにアクセスするクライアント・アプリケーション、または対応するサーバーのエージェントがハングしているように見えることがあります。障害が生じて TCP/IP 接続が切断されたことを検出するには、TCP/IP SO\_KEEPALIVE ソケット・オプションを使用します。

---

## 第 5 部 参照





---

## 第 9 章 IBM メインフレーム・データベースへのアクセスの構成

DB2 Connect がインストールされ、データベース・サーバーが通信を受け入れるように構成された後、2 つのシステム間の接続を確立して微調整する必要があります。

このセクションでは、DB2 コマンド行プロセッサ (CLP) を使用してデータベース・サーバーを検索し、データベース・サーバーに対する接続およびバインドを行う方法について説明します。



---

## 第 10 章 サポートされる DB2 Connect インターフェース言語

DB2 インターフェースの DB2 言語サポートは、サーバー・グループ言語とクライアント・グループ言語に分類できます。

サーバー・グループ言語は、メッセージ、ヘルプおよび DB2 グラフィカル・インターフェース・エレメントのほとんどを翻訳します。クライアント・グループ言語は、メッセージのほとんどと特定のヘルプ資料を含む、IBM Data Server Runtime Client コンポーネントを翻訳します。

サーバー・グループ言語には、ブラジル・ポルトガル語、チェコ語、デンマーク語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ロシア語、中国語 (簡体字)、スペイン語、スウェーデン語、中国語 (繁体字) が含まれます。

クライアント・グループ言語には、アラビア語、ブルガリア語、クロアチア語、オランダ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、ポルトガル語、ルーマニア語、スロバキア語、スロベニア語、トルコ語が含まれます。

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データが存在できる言語のことです。これらの言語は、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

---

### DB2 セットアップ・ウィザードの各国語表示 (Linux および UNIX)

**db2setup** コマンドは、既存の言語設定を判別するために、オペレーティング・システムを照会します。ご使用のオペレーティング・システムの言語設定が **db2setup** でサポートされている場合は、DB2 セットアップ・ウィザードを表示する際にその言語が使用されます。

お使いのシステムが、DB2 インターフェースでサポートされているものと同じコード・ページで、異なるロケール名で使用している場合は、以下のコマンドを入力して **LANG** 環境変数を適切な値に設定することで、翻訳された **db2setup** を表示できます。

**bourne シェル (sh)、korn シェル (ksh)、bash シェル:**

```
LANG=locale
export LANG
```

**C シェル:**

```
setenv LANG locale
```

*locale* は、DB2 インターフェースでサポートされているロケールです。

## 言語 ID (別の言語で DB2 セットアップ・ウィザードを実行する場合)

DB2 セットアップ・ウィザードを、ご使用のコンピューターのデフォルトの言語以外の言語で実行する場合には、言語 ID を指定して、手動で DB2 セットアップ・ウィザードを開始することができます。指定する言語は、インストールを実行するプラットフォームで選択可能なものでなければなりません。

Windows オペレーティング・システム上では、インストールで使用する言語の 2 文字の言語コードを指定するための **-i** パラメーターを指定して **setup.exe** を実行することができます。

Linux および UNIX オペレーティング・システム上では、各国語で DB2 セットアップ・ウィザードを表示するための **LANG** 環境変数を設定することをお勧めします。

表7. 言語 ID

言語	言語 ID
アラビア語 (Windows プラットフォーム上でのみ有効)	ar
ブラジル・ポルトガル語	br
ブルガリア語	bg
中国語 (簡体字)	cn
中国語 (繁体字)	tw
クロアチア語	hr
チェコ語	cz
デンマーク語	dk
オランダ語	nl
英語	en
フィンランド語	fi
フランス語	fr
ドイツ語	de
ギリシャ語	el
ハンガリー語	hu
イタリア語	it
日本語	jp
韓国語	kr
ノルウェー語	no
ポーランド語	pl
ポルトガル語	pt
ルーマニア語	ro
ロシア語	ru
スロバキア語	sk
スロベニア語	sl
スペイン語	es
スウェーデン語	se

表 7. 言語 ID (続き)

言語	言語 ID
トルコ語	tr

## DB2 Connect 製品のインターフェース言語の変更 (Windows)

DB2 のインターフェース言語は、メッセージ、ヘルプ、およびグラフィック・ツール・インターフェースで表示される言語です。DB2 データベース製品のインストール時に、1 つ以上の言語サポートをインストールするオプションが示されます。インストール後に、DB2 インターフェース言語を、他のインストール済みインターフェース言語の 1 つに変更できます。

### このタスクについて

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データが存在できる言語のことです。これらの言語は、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

使用する DB2 インターフェース言語を、ご使用のシステムにインストールする必要があります。DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、DB2 データベース製品インターフェース言語を選択しインストールします。DB2 データベース製品のインターフェース言語を、サポートされる、まだインストールしていないインターフェース言語に変更する場合には、まず最初に DB2 データベース製品インターフェース言語を、オペレーティング・システムの言語にデフォルトで指定します。それがサポートされない場合には、英語に指定します。

Windows 上で DB2 データベース製品のインターフェース言語を変更するには、ご使用の Windows オペレーティング・システムのデフォルトの言語設定を変更する必要があります。

### 手順

次のようにして、Windows オペレーティング・システム上で DB2 データベース製品インターフェース言語を変更します。

1. ご使用の Windows オペレーティング・システムの「コントロール パネル」で、「地域と言語のオプション」を選択します。
2. 「地域オプション」タブの「標準と形式」の下で、該当の言語を選択します。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、このステップでは「形式」タブを使用します。
3. 「地域オプション」タブの「場所」の下で、該当の言語に対応する場所を選択します。
4. 「詳細設定」タブの「Unicode 対応でないプログラムの言語」の下で、該当の言語を選択します。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、「管理」タブの「Unicode 対応ではないプログラムの言語」の下で、「システム ロケールの変更」をクリックして該当の言語を選択します。次にリポートすることが確認されるので、「キャンセル」をクリックします。

5. 「詳細設定」タブの「既定のユーザー アカウントの設定」の下の「すべての設定を現在のユーザー アカウントと既定のユーザー プロファイルに適用する」ボックスにチェック・マークを付けます。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、「管理」タブの「予約されたアカウント」の下の「予約されたアカウントへコピー」をクリックして、言語設定をコピーするアカウントにチェック・マークを付けます。
6. これらの変更を有効にする前に、リブートするように求められます。

## 次のタスク

ご使用のオペレーティング・システムのヘルプを参照して、デフォルトのシステム言語の変更についての追加情報を参照してください。

---

## DB2 Connect インターフェース言語の変更 (Linux および UNIX)

DB2 データベース製品のインターフェース言語は、メッセージ、ヘルプ、およびグラフィック・ツール・インターフェースで表示される言語です。DB2 データベース製品のインストール時に、1 つ以上の言語サポートをインストールするオプションが示されます。インストール後、インターフェース言語を、他のインストール済みインターフェース言語の 1 つに変更する場合には、このタスクで概説されたステップを使用してください。

### 始める前に

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データの言語のことで、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

使用する DB2 インターフェース言語のサポートを、ご使用のシステムにインストールする必要があります。DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、DB2 インターフェース言語サポートを選択しインストールします。DB2 データベース製品のインターフェース言語を、サポートされる、まだインストールしていないインターフェース言語に変更する場合には、DB2 インターフェース言語を、オペレーティング・システムの言語にデフォルトで指定します。オペレーティング・システム言語がサポートされていない場合、英語が DB2 インターフェース言語として使用されます。

DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードまたは National Language Package を使用して、DB2 インターフェース言語サポートを選択しインストールします。

### このタスクについて

ご使用のシステムで使用可能な共有ロケールを確認するには、`$ locale -a` コマンドを実行します。

## 手順

次のようにして、DB2 インターフェース言語を変更します。

**LANG** 環境変数を希望のロケールに設定します。

- bourne (sh)、korn (ksh)、および bash シェルの場合、

```
LANG=locale  
export LANG
```

- C シェルの場合、

```
setenv LANG locale
```

例えば、フランス語を使用して DB2 データベース製品にインターフェースするには、フランス言語サポートをインストールして、**LANG** 環境変数をフランス語ロケール (例えば fr\_FR) に設定する必要があります。

---

## 文字データの変換

文字データがマシン間で転送されるときは、受信する側のマシンが使用できる形に変換されなければなりません。

例えば、データが DB2 Connect サーバーと、ホストまたは System i データベース・サーバーとの間で転送される場合、データは通常、サーバー・コード・ページからホスト CCSID へ (およびその逆に) 変換されます。2 つのマシンが異なるコード・ページまたは CCSID を使用している場合、コード・ポイントは 1 つのコード・ページまたは CCSID から別のものへとマップします。この変換は、常に受信側で実行されます。

データベースへ送られる文字データは、SQL ステートメントと入力データから成ります。データベースから送られる文字データは、出力データから成ります。ビット・データとして解釈される出力データは変換されません。例えば、FOR BIT DATA 節で宣言された列のデータなどがあります。その他の場合は、すべての入力および出力の文字データは、2 つのマシンが異なるコード・ページまたは CCSID を持つときは変換されます。

例えば、DB2 Connect を使用してデータにアクセスすると、次のことが行われます。

1. DB2 Connect は、System z に SQL ステートメントと入力データを送信します。
2. DB2 for z/OS は SQL ステートメントおよびデータをホスト・サーバーのコード・ページに変換してから、データを処理します。
3. DB2 for z/OS は、結果を DB2 Connect サーバーに戻します。
4. DB2 Connect は結果をユーザーの環境のコード・ページに変換します。

双方向言語の場合は、特殊な "BiDi CCSIDS" が IBM によっていくつか定義されており、DB2 Connect でサポートされています。

データベース・サーバーの双方向属性がクライアントの属性と異なっている場合は、これらの特殊な CCSIDS を使ってこの相違を解決できます。

DB2 Connect と、ホストまたは System i サーバーの CCSID との間でサポートされているコード・ページの変換については、『サポートされているテリトリー・コードおよびコード・ページ』のトピックを参照してください。



---

## 第 11 章 サポートされる DB2 Connect インターフェース言語

DB2 インターフェースの DB2 言語サポートは、サーバー・グループ言語とクライアント・グループ言語に分類できます。

サーバー・グループ言語は、メッセージ、ヘルプおよび DB2 グラフィカル・インターフェース・エレメントのほとんどを翻訳します。クライアント・グループ言語は、メッセージのほとんどと特定のヘルプ資料を含む、IBM Data Server Runtime Client コンポーネントを翻訳します。

サーバー・グループ言語には、ブラジル・ポルトガル語、チェコ語、デンマーク語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ロシア語、中国語 (簡体字)、スペイン語、スウェーデン語、中国語 (繁体字) が含まれます。

クライアント・グループ言語には、アラビア語、ブルガリア語、クロアチア語、オランダ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、ポルトガル語、ルーマニア語、スロバキア語、スロベニア語、トルコ語が含まれます。

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データが存在できる言語のことです。これらの言語は、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

---

### DB2 セットアップ・ウィザードの各国語表示 (Linux および UNIX)

**db2setup** コマンドは、既存の言語設定を判別するために、オペレーティング・システムを照会します。ご使用のオペレーティング・システムの言語設定が **db2setup** でサポートされている場合は、DB2 セットアップ・ウィザードを表示する際にその言語が使用されます。

お使いのシステムが、DB2 インターフェースでサポートされているものと同じコード・ページで、異なるロケール名で使用している場合は、以下のコマンドを入力して **LANG** 環境変数を適切な値に設定することで、翻訳された **db2setup** を表示できます。

**bourne シェル (sh)、korn シェル (ksh)、bash シェル:**

```
LANG=locale
export LANG
```

**C シェル:**

```
setenv LANG locale
```

*locale* は、DB2 インターフェースでサポートされているロケールです。

## 言語 ID (別の言語で DB2 セットアップ・ウィザードを実行する場合)

DB2 セットアップ・ウィザードを、ご使用のコンピューターのデフォルトの言語以外の言語で実行する場合には、言語 ID を指定して、手動で DB2 セットアップ・ウィザードを開始することができます。指定する言語は、インストールを実行するプラットフォームで選択可能なものでなければなりません。

Windows オペレーティング・システム上では、インストールで使用する言語の 2 文字の言語コードを指定するための **-i** パラメーターを指定して **setup.exe** を実行することができます。

Linux および UNIX オペレーティング・システム上では、各国語で DB2 セットアップ・ウィザードを表示するための **LANG** 環境変数を設定することをお勧めします。

表 8. 言語 ID

言語	言語 ID
アラビア語 (Windows プラットフォーム上でのみ有効)	ar
ブラジル・ポルトガル語	br
ブルガリア語	bg
中国語 (簡体字)	cn
中国語 (繁体字)	tw
クロアチア語	hr
チェコ語	cz
デンマーク語	dk
オランダ語	nl
英語	en
フィンランド語	fi
フランス語	fr
ドイツ語	de
ギリシャ語	el
ハンガリー語	hu
イタリア語	it
日本語	jp
韓国語	kr
ノルウェー語	no
ポーランド語	pl
ポルトガル語	pt
ルーマニア語	ro
ロシア語	ru
スロバキア語	sk
スロベニア語	sl
スペイン語	es
スウェーデン語	se

表 8. 言語 ID (続き)

言語	言語 ID
トルコ語	tr

## DB2 Connect 製品のインターフェース言語の変更 (Windows)

DB2 のインターフェース言語は、メッセージ、ヘルプ、およびグラフィック・ツール・インターフェースで表示される言語です。DB2 データベース製品のインストール時に、1 つ以上の言語サポートをインストールするオプションが示されます。インストール後に、DB2 インターフェース言語を、他のインストール済みインターフェース言語の 1 つに変更できます。

### このタスクについて

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データが存在できる言語のことです。これらの言語は、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

使用する DB2 インターフェース言語を、ご使用のシステムにインストールする必要があります。DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、DB2 データベース製品インターフェース言語を選択しインストールします。DB2 データベース製品のインターフェース言語を、サポートされる、まだインストールしていないインターフェース言語に変更する場合には、まず最初に DB2 データベース製品インターフェース言語を、オペレーティング・システムの言語にデフォルトで指定します。それがサポートされない場合には、英語に指定します。

Windows 上で DB2 データベース製品のインターフェース言語を変更するには、ご使用の Windows オペレーティング・システムのデフォルトの言語設定を変更する必要があります。

### 手順

次のようにして、Windows オペレーティング・システム上で DB2 データベース製品インターフェース言語を変更します。

1. ご使用の Windows オペレーティング・システムの「コントロール パネル」で、「地域と言語のオプション」を選択します。
2. 「地域オプション」タブの「標準と形式」の下で、該当の言語を選択します。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、このステップでは「形式」タブを使用します。
3. 「地域オプション」タブの「場所」の下で、該当の言語に対応する場所を選択します。
4. 「詳細設定」タブの「Unicode 対応でないプログラムの言語」の下で、該当の言語を選択します。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、「管理」タブの「Unicode 対応ではないプログラムの言語」の下で、「システム ロケールの変更」をクリックして該当の言語を選択します。次にリポートすることが確認されるので、「キャンセル」をクリックします。

5. 「詳細設定」タブの「既定のユーザー アカウントの設定」の下の「すべての設定を現在のユーザー アカウントと既定のユーザー プロファイルに適用する」ボックスにチェック・マークを付けます。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) の場合、「管理」タブの「予約されたアカウント」の下の「予約されたアカウントへコピー」をクリックして、言語設定をコピーするアカウントにチェック・マークを付けます。
6. これらの変更を有効にする前に、リブートするように求められます。

## 次のタスク

ご使用のオペレーティング・システムのヘルプを参照して、デフォルトのシステム言語の変更についての追加情報を参照してください。

---

## DB2 Connect インターフェース言語の変更 (Linux および UNIX)

DB2 データベース製品のインターフェース言語は、メッセージ、ヘルプ、およびグラフィック・ツール・インターフェースで表示される言語です。DB2 データベース製品のインストール時に、1 つ以上の言語サポートをインストールするオプションが示されます。インストール後、インターフェース言語を、他のインストール済みインターフェース言語の 1 つに変更する場合には、このタスクで概説されたステップを使用してください。

### 始める前に

DB2 データベース製品によってサポートされる言語と、DB2 インターフェースによってサポートされる言語とを混同しないでください。DB2 データベース製品によってサポートされる言語とは、データの言語のことで、DB2 インターフェースによってサポートされる言語のスーパーセットです。

使用する DB2 インターフェース言語のサポートを、ご使用のシステムにインストールする必要があります。DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、DB2 インターフェース言語サポートを選択しインストールします。DB2 データベース製品のインターフェース言語を、サポートされる、まだインストールしていないインターフェース言語に変更する場合には、DB2 インターフェース言語を、オペレーティング・システムの言語にデフォルトで指定します。オペレーティング・システム言語がサポートされていない場合、英語が DB2 インターフェース言語として使用されます。

DB2 データベース製品のインストール時に DB2 セットアップ・ウィザードまたは National Language Package を使用して、DB2 インターフェース言語サポートを選択しインストールします。

### このタスクについて

ご使用のシステムで使用可能な共有ロケールを確認するには、`$ locale -a` コマンドを実行します。

## 手順

次のようにして、DB2 インターフェース言語を変更します。

**LANG** 環境変数を希望のロケールに設定します。

- bourne (sh)、korn (ksh)、および bash シェルの場合、

```
LANG=locale
export LANG
```

- C シェルの場合、

```
setenv LANG locale
```

例えば、フランス語を使用して DB2 データベース製品にインターフェースするには、フランス言語サポートをインストールして、**LANG** 環境変数をフランス語ロケール (例えば fr\_FR) に設定する必要があります。

---

## 文字データの変換

文字データがマシン間で転送されるときは、受信する側のマシンが使用できる形に変換されなければなりません。

例えば、データが DB2 Connect サーバーと、ホストまたは System i データベース・サーバーとの間で転送される場合、データは通常、サーバー・コード・ページからホスト CCSID へ (およびその逆に) 変換されます。2 つのマシンが異なるコード・ページまたは CCSID を使用している場合、コード・ポイントは 1 つのコード・ページまたは CCSID から別のものへとマップします。この変換は、常に受信側で実行されます。

データベースへ送られる文字データは、SQL ステートメントと入力データから成ります。データベースから送られる文字データは、出力データから成ります。ビット・データとして解釈される出力データは変換されません。例えば、FOR BIT DATA 節で宣言された列のデータなどがあります。その他の場合は、すべての入力および出力の文字データは、2 つのマシンが異なるコード・ページまたは CCSID を持つときは変換されます。

例えば、DB2 Connect を使用してデータにアクセスすると、次のことが行われます。

1. DB2 Connect は、System z に SQL ステートメントと入力データを送信します。
2. DB2 for z/OS は SQL ステートメントおよびデータをホスト・サーバーのコード・ページに変換してから、データを処理します。
3. DB2 for z/OS は、結果を DB2 Connect サーバーに戻します。
4. DB2 Connect は結果をユーザーの環境のコード・ページに変換します。

双方向言語の場合は、特殊な "BiDi CCSIDS" が IBM によっていくつか定義されており、DB2 Connect でサポートされています。

データベース・サーバーの双方向属性がクライアントの属性と異なっている場合は、これらの特殊な CCSIDS を使ってこの相違を解決できます。

DB2 Connect と、ホストまたは System i サーバーの CCSID との間でサポートされているコード・ページの変換については、『サポートされているテリトリー・コードおよびコード・ページ』のトピックを参照してください。

---

## 第 12 章 データベース・アプリケーションの開発

DB2 Connect を使用する環境でのアプリケーションのバインドおよび実行には、固有の考慮事項があります。

---

### DB2 Connect 上でのデータベース・ユーティリティのバインディング

データベース・ユーティリティ (インポート、エクスポート、REORG、コマンド行プロセッサ) および CLI バインド・ファイルをデータベースで使用するためには、各データベースに対してあらかじめバインドしておく必要があります。

#### このタスクについて

ネットワーク環境で、別々のオペレーティング・システムで稼働している複数のクライアントや、DB2 バージョンまたはサービス・レベルが異なる複数のクライアントを使用する場合、オペレーティング・システムと DB2 バージョンの各組み合わせごとにユーティリティを 1 回ずつバインドしなければなりません。

ユーティリティのバインドにより、パッケージ が作成されます。これは単一のソース・ファイルから特定の SQL ステートメントを処理するのに必要な情報がすべて入っているオブジェクトです。

バインド・ファイルは、インストール・ディレクトリー (Windows では通常、`sqllib` です) の `bnd` ディレクトリーの下にある別の `.lst` ファイル内でグループ化されています。各ファイルは、サーバーに固有のものであります。

#### 手順

- ユーティリティおよびアプリケーションを IBM メインフレーム・データベース・サーバーにバインドするには、IBM メインフレーム・サーバーに接続してから、次のような例をテンプレートとして使用します。

```
connect to dbalias user userid using password
bind path/bnd/@ddcsmvs.lst blocking all sqlerror continue
      messages mvs.msg grant public
connect reset
```

*path* は **DB2PATH** レジストリー値に対応します。

- DB2 データベースにデータベース・ユーティリティをバインドするには、コマンド行プロセッサを使用します。

1. `bnd` ディレクトリー `x:%sqllib%bnd` に移動します。ここで `x:` は、DB2 をインストールしたドライブです。
2. データベースに接続するには、Command Center® コマンド・センターまたはコマンド行プロセッサに次のようなコマンドを入力します。

```
connect to database_alias
```

ただし、*database\_alias* は、接続先のデータベースの別名です。

3. コマンド行プロセッサに次のようなコマンドを入力します。



```
"bind @db2ubind.lst messages bind.msg grant public"  
"bind @db2cli.lst messages clibind.msg grant public"
```

この例では、bind.msg および clibind.msg は出力メッセージ・ファイルであり、EXECUTE および BINDADD 特権が public に付与されます。

4. 次のようなコマンドを入力して、データベースへの接続をリセットします。

```
connect reset
```

注:

1. db2ubind.lst ファイルには、データベース・ユーティリティー用のパッケージを作成するのに必要なバインド (.bnd) ファイルのリストが入っています。db2cli.lst ファイルには、CLI および DB2 ODBC ドライバー用のパッケージを作成するのに必要なバインド (.bnd) ファイルのリストが入っています。
2. バインドは、完了するまでに数分かかることがあります。
3. BINDADD 権限を持っている場合は、CLI または ODBC ドライバーを最初に使用するとき、CLI パッケージが自動的にバインドされます。使用しているアプリケーションで、データベースをバインドする必要が生じた場合、**BIND** コマンドを使って、バインド処置を実行することができます。

---

## アプリケーションの実行

IBM Data Server Client をインストールすると、DB2 アプリケーションを作成および実行することができます。

以下のような各種アプリケーションから DB2 データベースにアクセスすることができます。

- 組み込み SQL、API、ストアド・プロシージャ、ユーザー定義関数、または CLI の呼び出しを含む IBM Data Server Client を使用して開発されたアプリケーション。
- ODBC アプリケーション。
- JDBC または SQLJ インターフェースを使用した Java アプリケーション
- PHP アプリケーション
- Ruby または Ruby on Rails アプリケーション
- Perl アプリケーション
- Python アプリケーション

Windows オペレーティング・システムでは、以下のルーチンまたはオブジェクトからも DB2 データベースにアクセスできます。

- Microsoft Visual Basic および Microsoft Visual C++ で実装された ActiveX データ・オブジェクト (ADO)。
- OLE 自動化ルーチン (UDF およびストアド・プロシージャ)。
- OLE データベース (OLE DB) 表関数。

アプリケーションを実行する方法は次のとおりです。

1. サーバーが構成され、実行されていることを確認します。



2. DB2 サーバーで、アプリケーション・プログラムが接続されているデータベース・サーバーでデータベース・マネージャーが開始されていることを確認します。開始されていない場合、アプリケーションを開始する前に、サーバーに **db2start** コマンドを出します。
3. アプリケーションが使用するデータベースに接続できることを確認します。
4. 必要なファイルをバインドし、使用されているデータベース・アプリケーション・ドライバーをサポートします。
5. アプリケーション・プログラムを実行します。



---

## 第 13 章 DB2 Connect のアンインストール

将来のいずれかの時点で、システムから DB2 Connect 製品を除去する必要が生じる場合があります。DB2 Connect 製品を除去またはアンインストールするための要件は、ご使用のオペレーティング・システムに基づいて示されています。

---

### DB2 Connect のアンインストール (Windows)

ここでは、Windows オペレーティング・システムから DB2 データベース製品を完全に削除する方法について説明します。この作業は、既存の DB2 インスタンスおよびデータベースが必要でなくなった場合以外は実行しないでください。

#### このタスクについて

デフォルトの DB2 コピーをアンインストールする場合、他の DB2 コピーがシステム上に存在するならば、アンインストールを続行する前に、**db2swtch** コマンドを使って新しいデフォルト・コピーを選択します。さらに、削除対象のコピーのもとで DB2 Administration Server (DAS) が稼働している場合、削除されないコピーに DAS を移します。それ以外の場合には、アンインストールの後に **db2admin create** コマンドを使用して DAS を再作成してから、何らかの機能を使用するために DAS を再び構成します。

#### 手順

Windows から DB2 データベース製品を削除するには、以下のステップを実行します。

1. オプション: **drop database** コマンドを使用して、すべてのデータベースをドロップします。ドロップするデータベースが本当に必要でなくなったかどうかを確かめてください。データベースをドロップすると、すべてのデータが失われます。
2. すべての DB2 プロセスおよびサービスを停止します。それには、Windows の「サービス」パネルを使用するか、または **db2stop** コマンドを使用します。DB2 データベース製品を削除する前に DB2 のサービスおよびプロセスを停止しないなら、メモリー中に DB2 DLL がロードされているプロセスとサービスのリストを示す警告が表示されます。「プログラムの追加と削除」を使用して DB2 データベース製品を除去する場合、このステップはオプションとなります。
3. DB2 データベース製品の削除に関しては、以下の 2 つのオプションがあります。
  - 「プログラムの追加と削除」

Windows の「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」ウィンドウを使用して、DB2 データベース製品を削除します。Windows オペレーティング・システムからソフトウェア製品を除去することについての詳細情報については、オペレーティング・システムのヘルプを参照してください。

- **db2unins** コマンド

DB2 データベース製品、フィーチャー、または言語を削除するには、`DB2DIR\bin` ディレクトリーから `db2unins` コマンドを実行できます。このコマンドで `/p` パラメーターを使用すると、複数の DB2 データベース製品を同時にアンインストールできます。 `/u` パラメーターを使用することにより、応答ファイルを使用して、DB2 データベース製品、フィーチャー、または言語をアンインストールできます。

## 次のタスク

残念ながら、「コントロール パネル」 > 「プログラムの追加と削除」機能を使用したり、`db2unins /p` コマンドや `db2unins /u` コマンドを使用しても、DB2 データベース製品を必ず削除できるわけではありません。前述の方法が失敗した場合にのみ、以下のアンインストール・オプションを試行してください。

強制的にすべての DB2 コピーを Windows システムから削除するには、`db2unins /f` コマンドを実行します。このコマンドは、システム上のすべての DB2 コピーを強引にアンインストールします。DB2 データベースなどのユーザー・データ以外は、すべて強制的に削除されます。このコマンドに `/f` パラメーターを指定して実行する前に、`db2unins` コマンドの詳細を参照してください。

---

## DB2 Connect のアンインストール (Linux および UNIX)

ここでは、Linux または UNIX オペレーティング・システムから DB2 データベース製品を除去するためのステップを示します。

### このタスクについて

新しいバージョンの DB2 データベース製品をインストールする場合、この作業は不要です。Linux または UNIX 上の DB2 データベース製品は、バージョンごとにインストール・パスが異なっているため、同じコンピューター上に複数のバージョンを共存させることが可能です。

**注:** この作業は、root ユーザー権限を使用してインストールされた DB2 データベース製品に適用されます。非 root ユーザーとしてインストールされた DB2 データベース製品をアンインストールする方法については、別のトピックで説明しています。

### 手順

DB2 データベース製品を削除するには、以下のステップを実行します。

1. オプション: すべてのデータベースをドロップします。データベースをドロップするには、`DROP DATABASE` コマンドを使用します。データベースを先にドロップせずにインスタンスをドロップした場合、データベース・ファイルは引き続きファイル・システムに存在します。
2. DB2 Administration Server を停止します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
3. DB2 Administration Server を除去するか、または `dasupdt` コマンドを実行して、DB2 Administration Server を別のインストール・パスに更新します。DB2 Administration Server を除去するには、「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。

4. すべての DB2 インスタンスを停止します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
5. DB2 インスタンスを除去するか、または **db2iupdt** コマンドを実行して、このインスタンスを別のインストール・パスに更新します。DB2 インスタンスを除去するには、「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
6. DB2 データベース製品を除去します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。



---

## 第 6 部 付録





---

## 付録 A. DB2 技術情報の概説

DB2 技術情報は、さまざまな方法でアクセスすることが可能な、各種形式で入手できます。

DB2 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2インフォメーション・センター
  - トピック (タスク、概念、およびリファレンス・トピック)
  - サンプル・プログラム
  - チュートリアル
- DB2 資料
  - PDF ファイル (ダウンロード可能)
  - PDF ファイル (DB2 PDF DVD に含まれる)
  - 印刷資料
- コマンド行ヘルプ
  - コマンド・ヘルプ
  - メッセージ・ヘルプ

**注:** DB2 インフォメーション・センターのトピックは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。最新の情報を入手するには、資料の更新が発行されたときにそれをインストールするか、[ibm.com](http://ibm.com) にある DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

技術資料、ホワイト・ペーパー、IBM Redbooks® 資料などのその他の DB2 技術情報には、オンライン ([ibm.com](http://ibm.com)) でアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (<http://www.ibm.com/software/data/sw-library/>) にアクセスしてください。

### 資料についてのフィードバック

DB2 の資料についてのお客様からの貴重なご意見をお待ちしています。DB2 の資料を改善するための提案については、[db2docs@ca.ibm.com](mailto:db2docs@ca.ibm.com) まで E メールを送信してください。DB2 の資料チームは、お客様からのフィードバックすべてに目を通しますが、直接お客様に返答することはありません。お客様が関心をお持ちの内容について、可能な限り具体的な例を提供してください。特定のトピックまたはヘルプ・ファイルについてのフィードバックを提供する場合は、そのトピック・タイトルおよび URL を含めてください。

DB2 お客様サポートに連絡する場合には、この E メール・アドレスを使用しないでください。資料を参照しても、DB2 の技術的な問題が解決しない場合は、お近くの IBM サービス・センターにお問い合わせください。

## DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)

以下の表は、IBM Publications Center ([www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss](http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss)) から利用できる DB2 ライブラリーについて説明しています。英語および翻訳された DB2 バージョン 10.1 のマニュアル (PDF 形式) は、[www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947](http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947) からダウンロードできます。

この表には印刷資料が入手可能かどうかを示されていますが、国または地域によっては入手できない場合があります。

資料番号は、資料が更新される度に大きくなります。資料を参照する際は、以下にリストされている最新版であることを確認してください。

注: DB2 インフォメーション・センターは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。

表 9. DB2 の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
管理 API リファレンス	SA88-4671-00	入手可能	2012 年 4 月
管理ルーチンおよびビュー	SA88-4672-00	入手不可	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 1 巻	SA88-4676-00	入手可能	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 2 巻	SA88-4677-00	入手可能	2012 年 4 月
コマンド・リファレン ス	SA88-4673-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース: 管理の 概念および構成リファ レンス	SA88-4662-00	入手可能	2012 年 4 月
データ移動ユーティリ ティー ガイドおよびリ ファレンス	SA88-4693-00	入手可能	2012 年 4 月
データベースのモニタ リング ガイドおよびリ ファレンス	SA88-4663-00	入手可能	2012 年 4 月
データ・リカバリーと 高可用性 ガイドおよび リファレンス	SA88-4694-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・セキュ リティ・ガイド	SA88-4695-00	入手可能	2012 年 4 月

表9. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
DB2 ワークロード管理ガイドおよびリファレンス	SA88-4685-00	入手可能	2012 年 4 月
ADO.NET および OLE DB アプリケーションの開発	SA88-4665-00	入手可能	2012 年 4 月
組み込み SQL アプリケーションの開発	SA88-4666-00	入手可能	2012 年 4 月
Java アプリケーションの開発	SA88-4669-00	入手可能	2012 年 4 月
Perl、PHP、Python および Ruby on Rails アプリケーションの開発	SA88-4670-00	入手不可	2012 年 4 月
SQL および外部ルーチンの開発	SA88-4667-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・アプリケーション開発の基礎	GI88-4279-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 インストールおよび管理 概説 (Linux および Windows 版)	GI88-4280-00	入手可能	2012 年 4 月
グローバル化・国際化ガイド	SA88-4696-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 サーバー機能インストール	GA88-4679-00	入手可能	2012 年 4 月
IBM データ・サーバー・クライアント機能インストール	GA88-4680-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 1 巻	SA88-4688-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 2 巻	SA88-4689-00	入手不可	2012 年 4 月
Net Search Extender 管理およびユーザズ・ガイド	SA88-4691-00	入手不可	2012 年 4 月
パーティションおよびクラスタリングのガイド	SA88-4697-00	入手可能	2012 年 4 月
pureXML ガイド	SA88-4686-00	入手可能	2012 年 4 月
Spatial Extender ユーザズ・ガイドおよびリファレンス	SA88-4690-00	入手不可	2012 年 4 月

表 9. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
SQL プロシージャ言語: アプリケーション のイネーブルメントお よびサポート	SA88-4668-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 1 巻	SA88-4674-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 2 巻	SA88-4675-00	入手可能	2012 年 4 月
Text Search ガイド	SA88-4692-00	入手可能	2012 年 4 月
問題判別およびデータ ベース・パフォーマンス のチューニング	SA88-4664-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 へのアップグレード	SA88-4678-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 の新機能	SA88-4684-00	入手可能	2012 年 4 月
XQuery リファレンス	SA88-4687-00	入手不可	2012 年 4 月

表 10. DB2 Connect 固有の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
DB2 Connect Personal Edition インストールお よび構成	SA88-4681-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect サーバー 機能 インストールおよ び構成	SA88-4682-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect ユーザー ズ・ガイド	SA88-4683-00	入手可能	2012 年 4 月

## コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する

DB2 製品は、SQL ステートメントの結果の原因になったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

### 手順

SQL 状態ヘルプを開始するには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

例えば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

---

## 異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

他のバージョンの DB2 製品の資料は、ibm.com® のそれぞれのインフォメーション・センターにあります。

### このタスクについて

DB2 バージョン 10.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1> です。

DB2 バージョン 9.8 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r8/> です。

DB2 バージョン 9.7 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r7/> です。

DB2 バージョン 9.5 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5> です。

DB2 バージョン 9.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/> です。

DB2 バージョン 8 のトピックについては、DB2 インフォメーション・センターの URL (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v8/>) を参照してください。

---

## コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新

ローカルにインストールした DB2 インフォメーション・センターは、定期的に更新する必要があります。

### 始める前に

DB2 バージョン 10.1 インフォメーション・センターが既にインストール済みである必要があります。詳しくは、「DB2 サーバー機能 インストール」の『DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 インフォメーション・センターのインストール』のトピックを参照してください。インフォメーション・センターのインストールに適用されるすべての前提条件と制約事項は、インフォメーション・センターの更新にも適用されます。

### このタスクについて

既存の DB2 インフォメーション・センターは、自動で更新することも手動で更新することもできます。

- 自動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語を更新します。自動更新を使用すると、手動更新と比べて、更新中にインフォメーション

ン・センターが使用できなくなる時間が短くなるというメリットがあります。さらに、自動更新は、定期的に行う他のバッチ・ジョブの一部として実行されるように設定することができます。

- 手動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語の更新に使用できます。自動更新は更新処理中のダウン時間を減らすことができますが、フィーチャーまたは言語を追加する場合は手動処理を使用する必要があります。例えば、ローカルのインフォメーション・センターが最初は英語とフランス語でインストールされており、その後ドイツ語もインストールすることにした場合、手動更新でドイツ語をインストールし、同時に、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーおよび言語を更新できます。しかし、手動更新ではインフォメーション・センターを手動で停止、更新、再始動する必要があります。更新処理の間はずっと、インフォメーション・センターは使用できなくなります。自動更新処理では、インフォメーション・センターは、更新を行った後に、インフォメーション・センターを再始動するための停止が発生するだけで済みます。

このトピックでは、自動更新のプロセスを詳しく説明しています。手動更新の手順については、『コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新』のトピックを参照してください。

## 手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされている DB2 インフォメーション・センターを自動更新する手順を以下に示します。

1. Linux オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
  - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
  - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
  - c. 次のように `update-ic` スクリプトを実行します。

```
update-ic
```
2. Windows オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
  - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
  - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`<Program Files>%IBM%DB2 Information Center%バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`<Program Files>` は「Program Files」ディレクトリーのロケーション)。
  - c. インストール・ディレクトリーから `doc%bin` ディレクトリーにナビゲートします。
  - d. 次のように `update-ic.bat` ファイルを実行します。

```
update-ic.bat
```

## タスクの結果

DB2 インフォメーション・センターが自動的に再始動します。更新が入手可能な場合、インフォメーション・センターに、更新された新しいトピックが表示されます。インフォメーション・センターの更新が入手可能でなかった場合、メッセージがログに追加されます。ログ・ファイルは、`doc\%eclipse%configuration` ディレクトリにあります。ログ・ファイル名はランダムに生成された名前です。例えば、`1239053440785.log` のようになります。

---

## コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新

DB2 インフォメーション・センターをローカルにインストールしている場合は、IBM から資料の更新を入手してインストールすることができます。

### このタスクについて

ローカルにインストールされた *DB2* インフォメーション・センター を手動で更新するには、以下のことを行う必要があります。

1. コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を停止し、インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで再始動します。インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで実行すると、ネットワーク上の他のユーザーがそのインフォメーション・センターにアクセスできなくなります。これで、更新を適用できるようになります。*DB2* インフォメーション・センターのワークステーション・バージョンは、常にスタンドアロン・モードで実行されます。を参照してください。
2. 「更新」機能を使用することにより、どんな更新が利用できるかを確認します。インストールしなければならない更新がある場合は、「更新」機能を使用してそれを入手およびインストールできます。

**注:** ご使用の環境において、インターネットに接続されていないマシンに *DB2* インフォメーション・センター の更新をインストールする必要がある場合、インターネットに接続されていて *DB2* インフォメーション・センター がインストールされているマシンを使用して、更新サイトをローカル・ファイル・システムにミラーリングしてください。ネットワーク上の多数のユーザーが資料の更新をインストールする場合にも、更新サイトをローカルにミラーリングして、更新サイト用のプロキシを作成することにより、個々のユーザーが更新を実行するのに要する時間を短縮できます。

更新パッケージが入手可能な場合、「更新」機能を使用してパッケージを入手します。ただし、「更新」機能は、スタンドアロン・モードでのみ使用できます。

3. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止し、コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を再開します。

**注:** Windows 2008、Windows Vista (およびそれ以上) では、このセクションの後の部分でリストされているコマンドは管理者として実行する必要があります。完全な管理者特権でコマンド・プロンプトまたはグラフィカル・ツールを開くには、ショートカットを右クリックしてから、「管理者として実行」を選択します。



## 手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のようにします。

1. DB2 インフォメーション・センターを停止します。
    - Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「停止」を選択します。
    - Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 stop
```
  2. インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで開始します。
    - Windows の場合:
      - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
      - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`Program_Files\IBM\DB2 Information Center\バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`Program_Files` は Program Files ディレクトリーのロケーション)。
      - c. インストール・ディレクトリーから `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートします。
      - d. 次のように `help_start.bat` ファイルを実行します。

```
help_start.bat
```
    - Linux の場合:
      - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
      - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
      - c. 次のように `help_start` スクリプトを実行します。

```
help_start
```
- システムのデフォルト Web ブラウザーが開き、スタンドアロンのインフォメーション・センターが表示されます。
3. 「更新」ボタン (🔄) をクリックします。(ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。) インフォメーション・センターの右側のパネルで、「更新の検索」をクリックします。既存の文書に対する更新のリストが表示されます。
  4. インストール・プロセスを開始するには、インストールする更新をチェックして選択し、「更新のインストール」をクリックします。
  5. インストール・プロセスが完了したら、「完了」をクリックします。
  6. 次のようにして、スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止します。
    - Windows の場合は、インストール・ディレクトリーの `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように `help_end.bat` ファイルを実行します。



help\_end.bat

注: help\_end バッチ・ファイルには、help\_start バッチ・ファイルを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。help\_start.bat は、Ctrl-C や他の方法を使用して停止しないでください。

- Linux の場合は、インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help\_end スクリプトを実行します。

help\_end

注: help\_end スクリプトには、help\_start スクリプトを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。他の方法を使用して、help\_start スクリプトを停止しないでください。

#### 7. DB2 インフォメーション・センター を再開します。

- Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「開始」を選択します。
- Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 start
```

## タスクの結果

更新された DB2 インフォメーション・センター に、更新された新しいトピックが表示されます。

---

## DB2 チュートリアル

DB2 チュートリアルは、DB2 データベース製品のさまざまな機能について学習するための支援となります。この演習をとおして段階的に学習することができます。

### はじめに

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

演習の中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、チュートリアルを参照してください。

### DB2 チュートリアル

チュートリアルを表示するには、タイトルをクリックします。

「*pureXML* ガイド」の『**pureXML**®』

XML データを保管し、ネイティブ XML データ・ストアに対して基本的な操作を実行できるように、DB2 データベースをセットアップします。

---

## DB2 トラブルシューティング情報

DB2 データベース製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

## DB2 の資料

トラブルシューティング情報は、「問題判別およびデータベース・パフォーマンスのチューニング」または *DB2* インフォメーション・センターの『データベースの基本』セクションにあります。ここには、以下の情報が記載されています。

- *DB2* 診断ツールおよびユーティリティーを使用した、問題の切り分け方法および識別方法に関する情報。
- 最も一般的な問題のうち、いくつかの解決方法。
- *DB2* データベース製品で発生する可能性のある、その他の問題の解決に役立つアドバイス。

## IBM サポート・ポータル

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを見つけるには、IBM サポート・ポータルを参照してください。Technical Support サイトには、最新の *DB2* 資料、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR またはバグ修正)、フィックスパック、およびその他のリソースへのリンクが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

IBM サポート・ポータル ([http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information\\_Management/DB2\\_for\\_Linux,\\_UNIX\\_and\\_Windows](http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_for_Linux,_UNIX_and_Windows)) にアクセスしてください。

---

## ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**適用度:** これらのご利用条件は、IBM Web サイトのあらゆるご利用条件に追加で適用されるものです。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

**権利:** ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

**IBM の商標:** IBM、IBM ロゴおよび `ibm.com` は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。



---

## 付録 B. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。IBM 以外の製品に関する情報は、本書の最初の発行時点で入手可能な情報に基づいており、変更される場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited  
U59/3600  
3600 Steeles Avenue East  
Markham, Ontario L3R 9Z7  
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、

利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる種類の保証も提供されません。IBM は、これらのサンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。





# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

- アプリケーション
  - ODBC 63
- アプリケーションの実行
  - Data Server Client
    - インストール済み 64
- アンインストール
  - DB2 Connect 67
    - Windows 67
  - root インストール 68
- インストール
  - DB2 Connect Personal Edition 11, 27
- インターフェース言語
  - 概要 51, 57
  - 変更
    - UNIX 54, 60
    - Windows 53, 59

## [カ行]

- 各国語サポート (NLS)
  - 文字データの変換 55, 61
  - DB2 セットアップ・ウィザードの表示 51, 57
- 言語
  - 言語 ID 用の DB2 セットアップ・ウィザード 52, 58
  - 双方向サポート 55, 61
  - DB2 Connect インターフェース 51, 57
  - DB2 インターフェース 53, 59
- コード化文字セット ID (CCSID)
  - 双方向言語 55, 61
- コード・ページ
  - サポートされている 51, 57
  - 変換
    - 例外 55, 61
- 更新
  - DB2 インフォメーション・センター 77, 79
- 構成
  - メインフレームへの接続 45
  - DB2 Connect Personal Edition 11
  - TCP/IP
    - CLP の使用 45
- コマンド
  - db2setup
    - DB2 セットアップ・ウィザードの各国語表示 51, 57

- ご利用条件
  - 資料 82

## [サ行]

- シナリオ
  - DB2 Connect 7
- 除去
  - DB2 Connect (root)
    - Linux 68
    - UNIX 68
- 資料
  - 印刷 74
  - 概要 73
  - 使用に関するご利用条件 82
  - PDF ファイル 74
- セキュリティ
  - ユーザー・グループ 31, 32
- 接続
  - 通信サーバーを使用した DRDA ホストとの接続 38
  - IBM i に直接 7
  - System z ホストに直接 7
- 双方向 CCSID サポート
  - 言語サポート 55, 61

## [タ行]

- チュートリアル
  - トラブルシューティング 82
  - 問題判別 82
  - リスト 81
  - pureXML 81
- 通信プロトコル
  - DRDA ホスト・アクセス構成 38
- データベース
  - ホスト 37
- データベース・アプリケーション
  - 開発 63
- ディレクトリー・スキーマ
  - 拡張
    - Windows 28, 29
- デフォルト言語設定
  - Windows 53, 59
- テリトリー・コード
  - ページ・サポート 55, 61
- 特記事項 85
- トラブルシューティング
  - オンライン情報 82
  - チュートリアル 82

## [ハ行]

- バインド
  - ユーティリティ
  - DB2 Connect 63
- ヘルプ
  - SQL ステートメント 76
- 変換
  - 文字 55, 61
- ホスト・データベース
  - TCP/IP の構成 45
- 本書について v, 1

## [マ行]

- ミッドレンジ・サーバー
  - 接続の構成 45
- メインフレーム・アクセス
  - 構成 45, 49
- 問題判別
  - チュートリアル 82
  - 利用できる情報 82

## [ヤ行]

- ユーザー・アカウント
  - インストールに必要 (Windows) 27
- ユーザー・グループ
  - セキュリティ 31, 32
  - 追加 31
  - DB2ADMNS 31, 32
  - DB2USERS 31, 32
- ユーティリティ
- バインド 63

## [ラ行]

- 例
  - DB2 Connect 7
- ロケール
  - DB2 Connect インターフェース言語 51, 57

## C

- CD
  - マウント
    - Linux 17, 18
    - Solaris 22, 23
- CD または DVD のマウント
  - Linux 17, 18
  - Solaris 22, 23

## D

- DB2 Connect
  - インストール
    - 非管理者 30
  - 概要 5
  - サーバー製品
    - インストール (Solaris オペレーティング・システム) 21
  - 製品 5
  - ディスクおよびメモリーの要件 12, 13
  - DB2 for VSE & VM 43
  - IBM i 接続 35
  - Personal Edition
    - インストール (概説) 11
    - インストール (Linux) 14, 17
    - インストール (Solaris) 18
    - インストール (Windows) 24, 25
    - 構成 11
    - Windows ユーザー・アカウント 27
  - DB2 for VM & VSE
    - DB2 Connect からの接続のための準備 43
  - DB2 for z/OS
    - システム表の更新 41
  - DB2 インフォメーション・センター
    - 更新 77, 79
    - バージョン 77
  - DB2 セットアップ・ウィザード
    - 言語 ID 52, 58
  - DB2 データベースへのアクセス
    - アプリケーション、Windows オペレーティング・システム 64
  - DB2ADMNS グループ
    - ユーザーの追加 31, 32
    - DB2 Connect Personal Edition 31
  - db2setup コマンド
    - 言語設定 51, 57
  - DB2USERS ユーザー・グループ
    - ユーザーの追加 31, 32
  - DB2 Connect 31
- DVD
  - マウント
    - Linux 17, 18
    - Solaris 22, 23

## L

- LANG 環境変数
  - 設定 51, 54, 57, 60
- Linux
  - インストール
    - DB2 Connect Personal Edition 14
  - 除去
    - DB2 Connect (root) 68
  - マウント
    - CD 17, 18
    - DVD 17, 18

## Linux (続き)

DB2 Connect のアンインストール  
root 68

## O

### ODBC

対応アプリケーション 63

## S

### Solaris オペレーティング・システム

インストール要件

DB2 Connect サーバー製品 21

CD または DVD のマウント 22, 23

DB2 Connect Personal Edition のインストール 18

### SQL ステートメント

ヘルプ

表示 76

### System i

データベース・サーバー

TCP/IP の構成 45

## T

### TCP/IP

構成

ホスト接続 7, 38

ホスト・データベース・サーバー 45

System i データベース・サーバー 45

DB2 for z/OS 構成 37

## U

### UNIX

除去

DB2 Connect (root) 68

DB2 Connect インターフェース言語の変更 54, 60

DB2 Connect のアンインストール

root 68

DB2 のアンインストール

root 68

## V

### VTAM

DB2 Connect からの接続のための z/OS の準備 37

## W

### Windows

インストール

DB2 Connect Personal Edition (手順) 24

DB2 Connect (非管理者権限による) 30

### Windows (続き)

デフォルト言語設定 53, 59

ユーザー・アカウント

DB2 Connect Personal Edition のインストール 27

DB2 Connect のアンインストール 67

### Windows オペレーティング・システム

インストール

DB2 Connect Personal Edition (要件) 25

## Z

### z/OS

DB2 データベース・システムの構成 41







Printed in Japan

SA88-4681-00



**日本アイ・ビー・エム株式会社**

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IBM DB2 Connect 10.1

DB2 Connect Personal Edition インストールおよび構成

